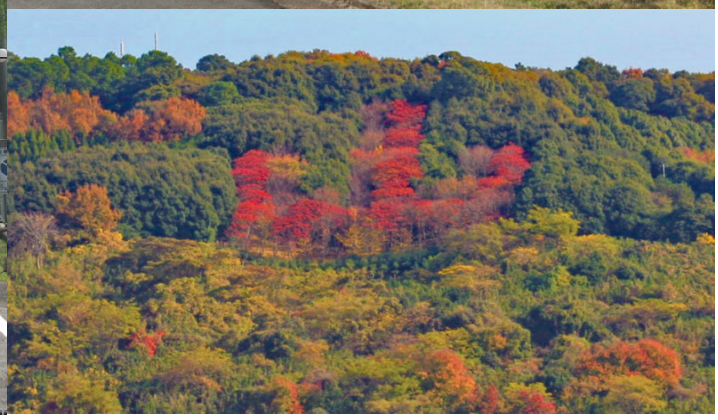
ISSN 2187-8773

令和８年版
森林総合研究所九州支所
年報　No.38

Annual Report 2026







国立研究開発法人 森林研究・整備機構
森林総合研究所九州支所
Kyushu Research Center
Forestry and Forest Products Research Institute

目　　次

九州支所における令和７年度研究推進の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・支所長　勝木俊雄　1

令和７年度研究課題一覧・・　2

試験研究の概要・・・　5

研究報告

［森林動物研究グループ長］

・令和７(2025)年の九州地域の森林病虫獣害発生状況・・・・・佐山勝彦・安藤裕萌・石原誠・安田雅俊　14

［森林資源管理研究グループ］

・万膳１号ヒノキ収穫試験地における林分構造の変化・・・・・・・・・高橋與明・近藤洋史・笹田敬太郎　18

試験研究の成果

令和７年度の発表業績・・　19

＜資料＞

受託出張・・　35

受託研修受入・・　40

海外派遣・出張・・　41

諸会議・・　42

当所職員研修・・・　43

図書刊行物の収書数と蔵書数・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　44

支所視察見学者・・　44

森林教室「立田山森のセミナー」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　45

森林総合研究所九州地域公開講演会開催報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　46

諸行事・・　47

九州地域評議会報告・・　52

職員の異動・・・　55

組織図・・　57

立田山実験林基本図・・　58

立田山実験林の現況・・　59

試験地一覧表・・・　61

九州支所における令和７年度研究推進の概要

支所長　勝木　俊雄

森林総合研究所では、研究所の目指す方向として５年ごとに中長期目標を定め、その目標を達成するために中長期計画を立て研究を推進しています。第５期中長期計画（令和３年度～７年度）では、重点課題として（１）環境変動下での森林の多面的機能の発揮に向けた研究開発、（２）森林資源の活用による循環型社会の実現と山村振興に資する研究開発、（３）多様な森林の造成・保全と持続的資源利用に貢献する林木育種の３課題が掲げられています。令和 7 年度に九州支所においては、第５期中長期計画の目標達成を目指し、九州地域において直面している、あるいは将来的に懸念される様々な課題の解決に向け、産学官民の各機関と連携を図りながら、27 名の研究員が 66 の研究課題に取り組みました。

令和 7 年度の主な研究課題としては、「物質・エネルギーの動態モニタリングによる気候変動影響の評価と予測技術の開発」、「森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化」、「造林・育林技術の実証とシーズ創出に向けた研究開発」、「持続的な林業経営および森林空間利用のための評価・計画・管理技術の開発」などの実施課題と「人工林伐採跡に再生した広葉樹林の防災・減災機能の評価」や「管理優先度の高い森林の抽出と管理技術の開発」などのプロジェクト課題、合計 42 題が研究成果をあげて終了し、新たに「遮断蒸発のメカニズムと森林の洪水緩和機能の増強に関する研究」、「消失の危機に直面している天然性木曽ヒノキ林の存在様式の推定」、「トリュフの香りはどのように作られるのか？」などの 8 課題がスタートしました。

九州支所では令和 7 年度に学術論文、学会発表、講演会、機関誌等を通じて、研究成果を 214 件の研究論文等に発表しました。また、九州支所のホームページや YouTube 森林総研チャンネルなど、インターネットを利用した情報発信にも努めて参りました。その他、多くの研究者が国や地方自治体の行政機関や試験研究機関をはじめとする各関係機関からの要請により学識経験者あるいは専門家として様々な会議や委員会、現場での実証試験等に参加して連携・協力、一般向けセミナー等を通じた地域社会への貢献など様々な形で研究成果の橋渡しを行いました。本報告は、九州支所が令和 7 年度に行ったこれらの研究活動、業務内容をまとめたものです。

九州地域では、人工林の伐採・再造林が大規模に進みつつある半面、伐採後の林地管理や苗木生産、林業に関わる関係者の高齢化といった問題も顕在化しつつあります。また、気候変動による影響は、確実に九州地域の森林でも強くなりつつあります。九州支所はこれからもめまぐるしく変化する社会情勢に柔軟に対応しつつ、地域の関係諸機関との連携協力のもと研究活動を推進し、農林水産業界をはじめ国民の皆様への研究成果の「最大化」と「社会還元」を心がけ、地域におけるハブ機能を発揮して参ります。

今後とも当支所へのご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

令和7年度研究課題一覧

第5期課題番号		課題名	研究期間	課題担当者	予算区分	予算配布元
1	重点課題	環境変動下での森林の多面的機能の発揮に向けた研究開発	3 ～ 7			
1ア	戦略課題	気候変動影響の緩和及び適応に向けた研究開発	3 ～ 7			
1アa	基幹課題	温室効果ガスの吸収・排出量の算定方法改善と気候変動影響評価手法の精緻化	3 ～ 7			
1アa1	実施課題	物質・エネルギーの動態モニタリングによる気候変動影響の評価と予測技術の開発	3 ～ 7	酒井 佳美 稲垣 昌宏 森 大喜 北村 兼三		
1アaPF31	外部プロ課題	森林土壌の炭素蓄積量報告のための情報整備	3 ～ 7	酒井 佳美 稲垣 昌宏	政府等受託【公募】	林野庁
1アaPF37	外部プロ課題	酵素反応を考慮した土壌炭素分解モデル構築に向けて～酸化酵素活性の制御要因の探索～	4 ～ 7	森 大喜	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF41	外部プロ課題	気候変動がもたらす生態系攪乱が森林の炭素吸収量に与える影響の長期広域観測とリスクマップの構築	4 ～ 8	北村 兼三	政府等受託【公募】	環境省
1アaPF43	外部プロ課題	熱帯林生態系のリン制限仮説の再検証：新たなパラダイムの創出	4 ～ 7	森 大喜	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF54	外部プロ課題	非破壊測定手法を用いた材分解促進イベントの実証	6 ～ 9	酒井 佳美	科研費【競】	日本学術振興会
1アaPF59	外部プロ課題	地上観測およびデータ駆動型モデルを用いた森林土壌GHG交換量の評価に関する研究	6 ～ 10	森 大喜	政府等外受託 【競】	環境再生保全機構
1アApf73	外部プロ課題	広域に拡大する熱帯林伐採が引き起こす森林から劣化植生へのレジームシフト：データ駆動型モデルを活用した温暖化緩和機能の総合評価	7 ～ 9	森 大喜	政府等外受託 【競】	環境再生保全機構
1アaPS2	交プロ課題	マイナスエミッションに向けた土壌メタン吸収の広域算定手法の開発	4 ～ 7	森 大喜	交付金プロ	－
1アaPS3	交プロ課題	ネットゼロ社会の実現に向けた森林資源の吸収源対策評価パッケージの開発	7 ～ 9	森 大喜	交付金プロ	－
1イ	戦略課題	森林生物の多様性と機能解明に基づく持続可能性に資する研究開発	3 ～ 7			
1イa	基幹課題	生態系からみた森林の生物多様性に関する研究開発	3 ～ 7			
1イa1	実施課題	生態系からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3 ～ 7	勝木 俊雄 山川 博美		
1イaPF30	外部プロ課題	鳥類標本の羽から探る生態と種分化	3 ～ 7	小高 信彦	科研費【競】	日本学術振興会
1イaPF53	外部プロ課題	急激な気候変動による東アジア森林ベルトの生態系の変化を新しい統合モデルで予測する	6 ～ 8	山川 博美	科研費【競】	日本学術振興会
1イb	基幹課題	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究開発	3 ～ 7			
1イb1	実施課題	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3 ～ 7	金谷 整一		
1イc	基幹課題	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究開発	3 ～ 7			
1イc1	実施課題	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化	3 ～ 7	佐山 勝彦 安田 雅俊 小高 信彦 鈴木 圭 東川 航		
1イcPF31	外部プロ課題	生態系ネットワークを介する物質動態に着目した流域環境の評価手法の開発	5 ～ 9	東川 航	科研費【競】	日本学術振興会
1イcPF32	外部プロ課題	菌類保全を実現させる保全遺伝学研究への挑戦	5 ～ 9	金谷 整一	科研費【競】	日本学術振興会
1イk1	基盤課題	長期観測試験地に基づいた森林動態のモニタリング	3 ～ 7	山川 博美		
1イk2	基盤課題	森林生態系の質的・量的劣化の早期把握を目指した長期モニタリング	3 ～ 7	野宮 治人 八木 貴信 山川 博美 山岸 極	政府等外受託	(一財)自然環境研究センター
1ウ	戦略課題	森林保全と防災・減災に向けた研究開発	3 ～ 7			
1ウa	基幹課題	森林における水・物質循環の機構解明と環境保全機能の評価技術の開発	3 ～ 7			
1ウa1	実施課題	水循環・物質循環が関与する森林の機能の評価技術の開発	3 ～ 7	壁谷 直記 村上 茂樹		
1ウaPF27	外部プロ課題	大気中のCO2濃度の上昇は森林からの蒸散量を増やすのか減らすのか？	5 ～ 9	壁谷 直記	科研費【競】	日本学術振興会
1ウaPF41	外部プロ課題	遮断蒸発のメカニズムと森林の洪水緩和機能の増強に関する研究	7 ～ 11	村上 茂樹	科研費【競】	日本学術振興会
1ウb	基幹課題	極端な気象現象に対応した山地・気象災害の軽減技術の開発	3 ～ 7			
1ウb1	実施課題	森林の山地・気象災害軽減技術の高度化	3 ～ 7	黒川 潮		

第5期課題番号		課題名	研究期間	課題担当者	予算区分	予算配布元
1ウbPF41	外部プロ課題	グローバルサウス諸国における森林を活用した防災・減災技術展開促進事業	7 ～ 7	森 大喜	政府等受託【公募】	林野庁
1ウbPS4	交プロ課題	人工林伐採跡に再生した広葉樹林の防災・減災機能の評価	5 ～ 7	勝木 俊雄 酒井 佳美 稲垣 昌宏 野宮 治人 山川 博美 山岸 極 黒川 潮 木下 晃彦 中村 慎崇 佐山 勝彦 東川 航	交付金プロ	
1ウbPS6	交プロ課題	迅速な災害復旧等に向けた時系列・三次元モデルを用いた国土履歴のAI判別技術の開発・普及	6 ～ 8	笹田 敬太郎	内閣府	
1ウk1	基盤課題	森林における降水と渓流水質のモニタリング	3 ～ 7	稲垣 昌宏		
1ウk2	基盤課題	森林水文モニタリング	3 ～ 7	黒川 潮 壁谷 直記		
1ウk3	基盤課題	森林気象モニタリング	3 ～ 7	北村 兼三		
2	重点課題	森林資源の活用による循環型社会の実現と山村振興に資する研究開発	3 ～ 7			
2ア	戦略課題	林産物の安定供給と多様な森林空間利用の促進に資する研究開発	3 ～ 7			
2アa	基幹課題	維持管理コストの低い森林造成に向けた造林・育林技術の開発	3 ～ 7			
2アa1	実施課題	造林・育林技術の実証とシーズ創出に向けた研究開発	3 ～ 7	野宮 治人 八木 貴信 山川 博美 山岸 極		
2アaPF7	外部プロ課題	樹木はどのように葉面から水分を獲得するか？葉面吸水を組込んだ樹木応答モデルの構築	3 ～ 7	安藤 裕萌 福本 桂子	科研費【競】	日本学術振興会
2アaPF13	外部プロ課題	被圧の即時効果と波及効果の分離評価に基づく生態学的な下刈り省略・終了基準の構築	5 ～ 9	山川 博美 山岸 極	科研費【競】	日本学術振興会
2アaPF14	外部プロ課題	日本全国の林地の林業採算性マトリクス評価技術の開発	5 ～ 9	山川 博美	政府等受託【公募】	農林水産省
2アaPF22	外部プロ課題	育成複層林への誘導方法に関する評価等委託事業	6 ～ 7	野宮治人	政府等受託【公募】	林野庁
2アaTF3	事業・助成課題	人工林伐採跡地のUAVによる人工播種技術の開発	5 ～ 7	勝木 俊雄 山川 博美	政府等外受託	西臼杵林業活性化協議会
2アb	基幹課題	森林資源の持続的利用に向けた林業生産技術の開発	3 ～ 7			
2アb1	実施課題	森林デジタル情報の活用による林業生産技術の高度化	3 ～ 7	吉田 智佳史		
2アbPF20	外部プロ課題	フォワーダ集材作業の労働課題を解決する自律走行マルチオペレーション技術の開発	6 ～ 7	吉田 智佳史	政府等外受託【公募】	株式会社諸岡
2アbPS11	交プロ課題	森林路網の復旧に貢献するAI技術を用いた林内作業機械の開発	7 ～ 7	吉田 智佳史	交付金プロ	
2アc	基幹課題	森林資源・空間の持続的な利用のための評価・計画・管理技術の開発	3 ～ 7			
2アc1	実施課題	持続的な林業経営および森林空間利用のための評価・計画・管理技術の開発	3 ～ 7	高橋 與明 近藤 洋史 福本 桂子		
2アcPF12	外部プロ課題	管理優先度の高い森林の抽出と管理技術の開発	3 ～ 7	八木 貴信 山川 博美 黒川 潮 高橋 與明 福本 桂子	政府等受託【公募】	農林水産省
2アcPF21	外部プロ課題	高頻度衛星データを利用した日本の森林蓄積量とその変動の解明	6 ～ 9	福本 桂子	科研費【競】	日本学術振興会
2アcPF22	外部プロ課題	Cost-plus-loss分析による適切な森林調査手法の選択	6 ～ 8	福本 桂子	科研費【競】	日本学術振興会
2アcPF28	外部プロ課題	消失の危機に直面している天然性木曽ヒノキ林の存在様式の推定	7 ～ 9	近藤 洋史	科研費【競】	日本学術振興会
2アcTF8	事業・助成課題	ドローンレーザ測量による効率的な収穫調査の高度化	5 ～ 7	高橋 與明	寄付・助成金・共同研究	(一財)日本森林林業振興会

第5期課題番号		課題名	研究期間	課題担当者	予算区分	予算配布元
2アd	基幹課題	健全な林業経営確立、山村地域振興、持続的木材利用、新たな木材需要創出に資する方策の提示	3 ～ 7			
2アd1	実施課題	多様化する森林との関わりを支える社会経済的・政策的方策の提示	3 ～ 7	笹田 敬太郎		
2アdPF13	外部プロ課題	科学的林業の受容と変容に関する国際比較研究：現場森林官が持つ仕事観に着目して	4 ～ 7	笹田 敬太郎	科研費【競】	日本学術振興会
2アdPF15	外部プロ課題	変貌する日本林業のミクロデータ分析：農林業センサスと国勢調査を用いて	4 ～ 7	笹田 敬太郎	科研費【競】	日本学術振興会
2アdPF19	外部プロ課題	地図指摘法を用いた森林所有者の森林空間情報の認知状況の把握	6 ～ 8	笹田 敬太郎	科研費【競】	日本学術振興会
2アk1	基盤課題	収穫試験地における森林成長データの収集	3 ～ 7	近藤 洋史 髙橋 與明 福本 桂子		
2イ	戦略課題	生物特性を活用した防除技術ときのこ等微生物利用技術の開発	3 ～ 7			
2イa	基幹課題	森林・林業・林産物に対する病虫獣害軽減技術体系の開発	3 ～ 7			
2イa1	実施課題	樹木・林業病害の実効的制御技術の開発	3 ～ 7	勝木 俊雄 石原 誠 安藤 裕萌		
2イa3	実施課題	森林林業害獣の実効的防除技術の開発	3 ～ 7	鈴木 圭		
2イaPF19	外部プロ課題	マレーシア国サラワク州の国立公園における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発	2 ～ 7	安藤 裕萌	政府等外受託 【競】	(国研)科学技術振興機構
2イaPF49	外部プロ課題	マツ枯れから侵入種・樹木病害・農業線虫まで：昆虫病原性線虫の共生細菌による防除	5 ～ 7	安藤 裕萌	科研費【競】	日本学術振興会
2イaPF50	外部プロ課題	土着天敵寄生蜂を用いたシイタケ害虫キノコバエ類の総合的生物防除技術の開発	5 ～ 7	木下 晃彦	科研費【競】	日本学術振興会
2イaPF51	外部プロ課題	侵入樹木病原菌スギ赤枯病菌の全ゲノム配列の解読と遺伝的多様性の解明	5 ～ 7	安藤 裕萌	科研費【競】	日本学術振興会
2イaPF61	外部プロ課題	日本と木材輸出相手国の樹木を外来病害虫から護る複合リスク緩和手法の開発	6 ～ 10	佐山 勝彦 安藤 裕萌 東川 航	政府等受託【公募】	農林水産省
2イaPF63	外部プロ課題	令和6年度高度な森林鳥獣被害防除手法の標準化推進事業	6 ～ 7	山川 博美	政府等受託【公募】	林野庁
2イaPS10	交プロ課題	種子・苗木病害の診断技術および防除法の高度化	5 ～ 7	安藤 裕萌	交付金プロ	
2イaPS14	交プロ課題	樹木の倒伏リスク診断技術の開発	7 ～ 9	安藤 裕萌	交付金プロ	
2イb	基幹課題	きのこ等微生物の特性解明と生産利用技術の開発	3 ～ 7			
2イb1	実施課題	きのこ等微生物の特性解明と生産性及び有益性向上技術の開発	3 ～ 7	木下 晃彦 中村 慎崇		
2イbPF13	外部プロ課題	国産トリュフの林地栽培に向けての技術体系の構築	4 ～ 9	木下 晃彦 中村 慎崇	政府等外受託 【競】	(国研)農業・食品産業技術総合研究機構 生物系特定産業技術研究支援センター
2イbPF14	外部プロ課題	着実な林地栽培に向けた菌根菌バカマツタケの有機物分解能と厚壁胞子形成能の有効性	5 ～ 7	中村 慎崇	科研費【競】	日本学術振興会
2イbPF24	外部プロ課題	トリュフの香りはどのように作られるのか？	7 ～ 9	木下 晃彦	科研費【競】	日本学術振興会
2ウ	戦略課題	木材利用技術の高度化と需要拡大に向けた研究開発	3 ～ 7			
2ウb	基幹課題	非住宅・中高層建築物等への木質材料利用拡大に向けた利活用・維持管理技術の開発	3 ～ 7			
2ウbTF1	事業・助成課題	家庭用シロアリベイト材を用いた効果的施用方法に関する研究	30 ～	酒井 佳美	政府等外受託	アース製薬(株)
2エ	戦略課題	木質新素材と木質バイオマスエネルギーの社会実装拡大に向けた研究開発	3 ～ 7			
2エb	基幹課題	木質バイオマスエネルギーの供給とエネルギー利用拡大に向けた技術の開発	3 ～ 7			
2エb1	実施課題	木質バイオマスエネルギーの利用拡大を促進する技術の開発	3 ～ 7	吉田 智佳史		
2エbPF5	外部プロ課題	ヤナギ超短伐期施業技術を活用した木質バイオマス燃料供給体制構築の実証事業	5 ～ 8	吉田 智佳史 佐山 勝彦 石原 誠	政府等外受託 【競】	(国研)新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)

様式１　研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１ア a １	物質・エネルギーの動態モニタリングによる気候変動影響の評価と予測技術の開発	3〜7	交付金	
執筆者名	北村兼三			
研究の概要	森林気象の長期モニタリングデータを整備し、森林－大気間の物質交換過程を把握し評価することを目的とする。鹿北流域試験地の二酸化炭素動態観測施設を利用して森林の熱収支、CO_2フラックスおよび気象値などの連続データを取得した。植物起源揮発性有機ガス(BVOC)のサンプル採取を行いBVOCのサイト横断的な観測の一部を担った。観測サイトにおける2024年の年平均気温は16.7℃、タワーサイトの年降水量(鹿北流域試験地の公式値とは異なる)は2257mm、日射量の年平均値は160Wm-2、下向き長波放射量の年平均値は370Wm^{-2}であった。また、測定機器の不調により欠測が生じた。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１ア a ＰＦ３７	酵素反応を考慮した土壌炭素分解モデル構築に向けて〜酸化酵素活性の制御要因の探索〜	4〜7	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	森大喜			
研究の概要	リンはすべての生命活動に不可欠な栄養素であるが、熱帯の多くの森林土壌では不足しており、植物や微生物の成長を制限する要因となっている。これまで、土壌微生物がリン不足に応じてリンを獲得する酵素（フォスファターゼ）の生産量を増やすことは知られていたが、酵素の分解効率が向上するかどうかは明らかでなかった。本研究では、長期リン施肥実験のデータを統合的に分析し、微生物がリン不足下で分解効率の高い酵素を生産していないことを示した。この結果を説明するため、本研究では「酵素劣化仮説（enzyme degradation hypothesis）」を提唱した。これは、高品質な酵素を少量生産する戦略はプロテアーゼによる分解を受けやすく、結果的に有効性が低下するため、微生物は低品質でも大量に酵素を生産する方が有利であるとするものである。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１ア a ＰＦ５４	非破壊測定手法を用いた材分解促進イベントの実証	6〜9	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	酒井佳美			
研究の概要	全国５か所の試験地（茨城：つくば、群馬：水上、京都：芦生、熊本、鹿児島：高隅）において2016年より材分解試験を行った。設置位置を土壌0㎝（表層）、5–10㎝、20–30㎝の3層とし、分解試料にはスギの市販丸太材から作成した四割材（断面１辺25mm）と、スギの根（直径階10–30mm）を用いた。試験開始から8年の間に6度の試料回収を行い、時間の経過に伴う重量減少の結果を取りまとめた。土壌深さで分解速度を比較すると5–10㎝で最も分解が速く、5つの試験地での分解定数は0.07±0.01〜0.34±0.04（$year^{-1}$）と幅広い数値となった。また、熊本ではスギの根を5段階の直径階（0–2、2–5、5–10、10–30、30–50mm）に分けて、土壌深さ5–10㎝での分解試験を行った。その結果、分解定数は0.45±0.03〜0.61±0.04のレンジとなり、根試料よりも樹皮や形成層が取り除かれた丸太から作成した四割材の方が分解は遅くなることが明らかとなった。一方、熊本では直径影響があまり明瞭ではないという結果であった。			

様式１　研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１イａＰＦ３０	鳥類標本の羽から探る生態と種分化	3～７	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	小高信彦			
研究の概要	鳥類の標本の多くは，一部の骨格を除き主に皮と羽毛が保存された仮剥製として保管されている。本課題では安定同位体分析に基づく餌利用や移動履歴の解明を通じ，標本に残されている羽試料の新たな活用方法の創出を目指している。今年度は，沖縄島内において事故等により収容・保管されている希少種を含む10種の鳥類標本を対象とし，その方法を応用した。各標本からは胸部の体羽を許可を得た上で数枚採取後，炭素および窒素の安定同位体を分析し，各種の食性を検討した。その結果，種ごとの分析数は限られているものの，それぞれの採餌生態に一致すると考えられる同位体データが得られた。また，ヤンバルクイナについては複数の個体の試料が得られ，齢間での同位体比の値の比較と換羽のタイミングの検討から，齢ごとの採餌環境に関しても考察を加えた。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１イｂ１	生物機能からみた森林の生物多様性に関する研究の高度化	3～7	交付金	
執筆者名	金谷整一			
研究の概要	1920年代に立田山で発見されたヤエクチナシは、現在、野生絶滅と考えられている。一方で、観賞や緑化、遺伝資源保全を目的に自生個体由来のクローンが各地に植栽されているが、各種害虫類による被害が散見される。将来的なヤエクチナシの利活用および保全に資するため、害虫類に関する情報を集積し、対策を進めることが重要である。そこで、2023年4月初旬～2025年9月下旬に森林総合研究所九州支所立田山実験林内に植栽されているヤエクチナシおよびクチナシの葉上で確認された害虫類の幼虫を採集・飼育し、成虫を羽化させ種を同定した。その結果、両樹種からはリュウキュウオオスカシバ、ヤエクチナシからはキマダラテングイラガ（熊本県初確認）を、クチナシから、ニトベミノガ（食樹の新記載）およびチャハマキの羽化を確認した。これらは数例の確認であり被害は微量であるものの、ヤエクチナシを食樹としている可能性が高いことから、今後は、害虫類の発生時期に合わせた捕殺あるいは殺虫剤散布等の適切な対応が重要である考えられた。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１イｃ１	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化	3～7	交付金	
執筆者名	佐山勝彦			
研究の概要	人為や環境変動が生物多様性に及ぼす影響を明らかにするため、都市近郊林における約50年前と現在の昆虫相を比較する調査を行った。熊本市のほぼ中央に位置する立田山は、第二次世界大戦中に多数の樹木が伐採された。戦後は高度経済成長期に宅地開発が進んだものの、生活環境保全林として整備され、現在では成熟段階に移りつつある。立田山の昆虫類については、1970年代に約1,500種が記録された。そこで、昆虫類のうち有剣ハチ類（カリバチとハナバチ）を対象に5年間にわたり調査を行った。その結果、合計12科78種の有剣ハチ類が記録された。このうち、スズメバチ科の種数が18種でもっとも多く全体の23%を占めた。次いでミツバチ科の12種（15%）、ギングチバチ科とハキリバチ科の各10種（13%）と続いた。一方、1970年代には合計11科58種が記録されている。1970年代と2020年代の種構成を比較すると、共通種は合計41種で、2020年代には新たに37種が確認されたが、1970年代に確認された17種は確認できなかった。			

様式１　研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１イｃ１	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化	3～7	交付金	
執筆者名	安田雅俊			
研究の概要	シカの個体数は全国的に増加し、農林業や生態系に深刻な被害をもたらしている。九州7県におけるシカの捕獲数は1975年度の2714頭から急速に増加し、2015年度には13万頭に達した。熊本県（2025）によれば、熊本県内における生息数と個体群増加率はそれぞれ約15万頭、1.2と推定されており、年間の増加分に相当する約3万頭が毎年捕獲されているものの、個体数の増加傾向には歯止めがかかっていないようである。一方、国のレッドリストで絶滅のおそれのある地域個体群に選定されている九州のカモシカは、過去25年間に減少傾向にある。直近の推定生息数は約200頭で、今世紀中に絶滅する可能性がある。これら2種について現状を整理した。今後の課題として、シカの個体群管理、すなわち環境省が掲げる「メスジカの捕獲強化」の具体化、文化財行政がこれまで担ってきたカモシカ個体群の保全への環境行政（鳥獣行政＋生物多様性行政）の積極的な関与が挙げられる。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１イｃ１	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化	3～7	交付金	
執筆者名	鈴木圭			
研究の概要	九州におけるムササビの春の繁殖期が他地域よりも早い可能性があることを指摘した。本種はスギ林を生息地とすることから、林業の影響を受けやすい種である。繁殖に対するストレスを減らすためには、生息する地域ごとに本種の繁殖への影響が小さい時期に伐採などを行うことが望まれる。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１イｃ１	森林の生物多様性の保全と持続可能な利用に関する研究の高度化	3～7	交付金	
執筆者名	東川航			
研究の概要	河川源流に生息するムカシトンボの幼虫は、渓流中で5～8年もの長期間を過ごすことから、安定した源流環境のよい指標種となる。本種は全国的に減少しており、森林伐採に伴う渓流への土砂流入や洪水による悪影響が疑われている。原生的な森林だけでなく針葉樹人工林からなる源流域にも本種が生息するのかは確かめられていない。また、人工林の皆伐が本種の生息状況にどのように影響するかも不明である。本研究では、針葉樹人工林の皆伐状況が異なる4つの隣接した1次河川流域において幼虫の生息調査を実施し、流域間で幼虫の生息密度を比較した。いずれの流域にも幼虫の生息が認められ、約9割が頭幅3mm以下の若齢幼虫であった。皆伐あり流域では生息密度が圧倒的に小さく、皆伐なし流域よりも有意に小さかった。以上より、針葉樹人工林からなる源流域も本種の繁殖環境として重要であると分かったが、皆伐に伴う環境の変化が本種の産卵や幼虫の生息を困難にする可能性も示唆された。			

様式１　研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１ウａ１	水循環・物質循環が関与する森林の機能の評価技術の開発	5～7	交付金	
執筆者名	壁谷直記			
研究の概要	開発した高時間分解能降雨採取装置を，”スマートレインサンプラー”と命名し，梅雨時期の降雨イベントを解析した．その結果，降雨の安定同位体比（$\delta^{2}H$，$\delta^{18}O$）が，時間経過とともに低くなる降水イベントとそうでない降水イベントが存在していた。両者の違いは、降雨期間中を通じて明瞭な降水コアが維持されているかどうかという点であることがわかった．前者の場合はレイリー蒸留モデルによる計算により雨雲の初期水蒸気量を推定することができた。これらに加えて、熊本市南部に位置する江津湖の湧水群に対してｄ値の季節変動を用いた平均通過時間の推定を行い、不圧地下水と被圧地下水で平均通過時間が大きく異なっていることを明らかにした。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１ウａＰＦ２７	大気中のCO_2濃度の上昇は森林からの蒸散量を増やすのか減らすのか？	5～9	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	壁谷直記			
研究の概要	年輪解析結果の比較検証データとして使用する水文データを熊本県の鹿北流域試験地（山鹿市）で取得した．鹿北試験地における73年生のスギの年輪コアを採取して炭素安定同位体（$\delta^{13}C$）を分析した．その結果，同試験地のスギの水利用効率（iWUE＝光合成速度／気孔コンダクタンス）の長期変動が明らかとなった．このスギの単木から求めた水利用効率を年輪幅や立木密度などを考慮して年間の蒸発散量に変換し，同試験地の降水量，流出量から算出した流域スケールの蒸発散量と比較したところおおむね対応していることが明らかとなった．今後は，カンボジア王国で採取したコアサンプルの分析を進める予定である．			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１ウａＰＦ４１	遮断蒸発のメカニズムと森林の洪水緩和機能の増強に関する研究	7～11	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	村上茂樹			
研究の概要	林分密度10000本/ha（葉面積指数5.4）と5000本/ha（葉面積指数4.0）のクヌギ林において、遮断蒸発を測定した。測定期間中の雨量（286.4mm）に対する遮断蒸発は、10000本/haでは6.3%、5000本/haでは11.6%であった。一方、このクヌギ林の近傍にある5700本/haのスギ林（葉面積指数5.4）では、遮断蒸発が雨量の24.7%であった（村上・北村 2023）。すなわち、遮断蒸発の大小は葉面積の大小では説明できない。クヌギの葉はスギの葉よりもしなやかで、雨滴の衝撃を吸収しやすく、雨滴飛沫が発生しにくい。これら3林分の枝の剛性は、10000本/haのクヌギ、5000本/haのクヌギ、5700本/haのスギの順に高くなり、剛性が高いほど雨滴飛沫が発生しやすくなると推測される。遮断蒸発が雨滴飛沫の蒸発で生じると考えると、剛性の高い枝葉を持った林分ほど遮断蒸発が大きくなることが説明できる。			

様式１　研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１ウｂＰＳ４	人工林伐採跡に再生した広葉樹林の防災・減災機能の評価	5～7	交付金プロ	
執筆者名	稲垣昌宏			
研究の概要	人工林の皆伐面積の増加に伴い、再造林放棄地の増加が問題になっている。森林の土砂移動防止機能に関して、再生した広葉樹林に関してはほとんど知見が得られていない。今後、面積が増加する思われる再造林放棄地の防災機能の理解は、森林全体を面的に評価する際に必要である。 熊本県山鹿市と菊池市にある再造林放棄地で試孔を掘り、根系観察を行った。その結果、伐採からの経過年数以上に、石礫量や表層土壌の撹乱状態（崩積、残積等）による影響が大きかったと考えられた。さらに再造林放棄地では作業道の敷設等による人為的な土壌の撹乱も、根系発達範囲に影響していると考えられた。 さらに、従来は伐採後10年程度で土砂移動防止機能が消失すると考えられてきた根株についても、深さ30cmまでの体積の4-8%程度を占めていた。特に石礫率が高い不成績造林地の場合に、次世代木の根系展開において空間的な基盤を提供しうるという点で重要であると考えられた。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１ウｂＰＳ４	人工林伐採跡に再生した広葉樹林の防災・減災機能の評価	5～7	交付金プロ	
執筆者名	野宮治人			
研究の概要	小課題１：再生した広葉樹林の林分構造の発達過程の解明 スギ・ヒノキ人工林の皆伐後に成立する森林の種組成および林分構造の変化を明らかにする目的で、2023年からの3年間に、シカ生息密度の低い熊本県北部から福岡県南部の地域で調査した。人工林の伐後に植栽されず7～31年間経過した9林分35調査区に、10m×10mの調査枠を設定して地際径3cmを超える樹木の毎木調査を実施した。調査では79樹種を確認した。落葉性の先駆性樹種の割合が高く、アカメガシワが31%で突出し、以下ヌルデとカラスザンショウが6%で続いた。常緑性の高木種の割合は全体的に低く、タブノキが最も高くて6%で、それに続くシロダモとアラカシは1%だった。高木や小高木が複数幹を持つ割合は、落葉樹より常緑樹で高かった。複数幹を持つ個体は皆伐時に前生樹として存在していた可能性を示す。伐後年数の増加とともに、林分の樹高や基部直径断面積合計は増加し、個体数は減少した。この傾向は、斜面上部より下部で明らかだった。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
１ウｂＰＳ４	人工林伐採跡に再生した広葉樹林の防災・減災機能の評価	5～7	交付金プロ	
執筆者名	黒川潮			
研究の概要	日本国内の針葉樹人工林地においては、主伐後再造林を行う事によって資源の循環が行われてきたが、経済的な側面から今後再造林を行わないという選択が増加していくと想定される。防災上の観点からは再造林放棄地の増加に伴い、広葉樹林となる林地も増えることから、針葉樹林地をベースとしたこれまでの評価手法とは異なる新たな山地災害リスク評価が求められている。これを受けて、九州地方において初期段階で伐採跡地に侵入する先駆性樹種の力学的評価を行うことを目的として、アカメガシワに着目し、根系分布調査を実施した。14か所で取得したデータおよび植生調査結果から、せん断抵抗力補強強度ΔCを算出した。ヒノキにおける既往の成果と比較して、アカメガシワのΔCは伐採後7、8年では大きく、伐採後20、21年後においてはほぼ同等となった。この結果から、アカメガシワ根系による斜面崩壊防止機能は問題なく発揮されるものと見込まれる。			

様式１　研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２ア a ＰＦ１３	被圧の即時効果と波及効果の分離評価に基づく生態学的な下刈り省略・終了基準の構築	5～9	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	山岸極			
研究の概要	下刈りの省力化は林業経営において喫緊の課題である。下刈り要否の判断基準は競合関係に基づく指数で示されているが、生態学的根拠が薄い点や近年導入され始めた育種成果品に対応できない点で問題がある。本課題では、エリートツリー等の育種成果品導入時の下刈り回数の削減・終了のタイミングを樹冠発達過程の生態学的根拠に基づいて理論的に予測する。令和7年度は、主軸の伸長履歴から幹に着生する枝の量を推定するために、下刈り省略試験地のスギ植栽木の測定データを基に解析を行った。その結果、伸長履歴からの枝量推定はある程度の精度で推定可能であったが、過去に遡るほど推定精度が低下した。また、推定精度の改善には、本研究では計測しなかった枝の枯死量を計測し、枯死を正確に表現した数式を組み込む必要性が示唆された。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２ア a ＰＦ１４	日本全国の林地の林業採算性マトリクス評価技術の開発	5～9	政府等受託【競】	農林水産省
執筆者名	山川博美			
研究の概要	スギの成長は地形などの立地環境に強く影響される。近年、TWIとスギ樹高成長の関係が報告され、TWIが高い場所（湿潤な立地）ほど成長が良好であり、エリートツリーなどの植栽効果も高いことが示されている。これにより、適切な立地選択の重要性が明らかになった。一方、拡大造林とは異なり、再造林では成林したスギを伐採するため、伐採前の樹高はその場所の地位を反映すると考えられる。近年、航空LiDAR測量の発達により、広範囲で樹高を把握することが可能となった。そこで、航空LiDARで計測された伐採前のスギ樹高と再造林後の樹高との関係を明らかにすることを目的とし、5年生スギ人工林で調査した。解析の結果、5年生スギ樹高は土壌A層深やGISで算出されるTWIやTPIよりも伐採前樹高との相関が高く、伐採前樹高が初期成長を予測する重要な指標であることが示された。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２ア a ＴＦ３	人工林伐採跡地のUAVによる人工播種技術の開発	5～7	政府外受託	西臼杵林業活性化協議会
執筆者名	勝木俊雄			
研究の概要	UAVによる播種が予定されている宮崎県西臼杵地域の高千穂町と日之影町において、UAVによって播種が可能なサイズで継続して種子採取が可能、かつシカが不嗜好性の樹種の実生苗を用いて、シカの嗜好性の検証実験をおこなったところ、植栽1月後の生存率と実生高の柵の内外を比較すると、アカマツやカナクギノキ、ウリハダカエデ、クマノミズキなどは柵外の生存率は中程度だが実生高は有意に低く、枯死しない程度の食害を受けたと考えられた。コブシやクサギなどは、内外の生存率と実生高に有意な差は見られず、嗜好性が低いと考えられた。この結果、これら6種を播種候補種に選定した。また、様々なサイズの種子を均等に散布することは困難であり、播種用のペレットの素材やサイズについて検討した。その結果、直径14mmの球状の形態で、ゼオライトを主成分とし、乾燥していると固いが多量に水を含むと溶解するペレットを開発した。これらを用いて2026年3月にUAV播種をおこなった。			

様式１　研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２ア ｃ ＰＦ １２	管理優先度の高い森林の抽出と管理技術の開発	3～7	政府等受託【公募】	農林水産省
執筆者名	八木貴信			
研究の概要	手入れ不足人工林の間伐技術向上のため将来木施業試験地の追跡調査を実施した。将来木施業は、立木密度を施業地全体で均一に管理する慣行型間伐と異なり、将来木として選択した優良木の成長促進に施業努力を集中し、作業をその周囲に限定する単木管理型間伐技術である。手入れ不足な過密人工林においては、慣行型間伐では効果が出にくい一方、効果を出すために間伐強度を強めると間伐直後の気象害リスクが大きい。しかし過密林にも優良木は混在し、優良木には間伐効果が出やすく間伐直後の気象害も起こりにくい。優良木に的を絞って施業を行い気象害リスクを抑えつつ健全な森林骨格の迅速な確立を目指す将来木施業は、過密林の健全性回復に有効と考えられる。本年度は、当支所と熊本市の「森林整備・活用及び森林研究に関する連携協定」の下、熊本市有の約50年生ヒノキ人工林、スギ人工林に設定済の試験地にて、それぞれ間伐２年後、１年後の調査を行い、前者では直径成長への間伐効果が現れつつあることを確認した。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２ア ｃ ＰＦ １２	管理優先度の高い森林の抽出と管理技術の開発	3～7	政府等受託【公募】	農林水産省
執筆者名	高橋與明			
研究の概要	手入れ不足で山地災害発生の危険度が高い民有林人工林を、ALS（航空レーザ計測）データを用いて抽出する一連の解析・表示手法の開発を最終目標の一つとした。ALSデータから平均樹冠長率（CR）と樹冠疎密度（CC）を高精度に推定する新技術を開発し、市町村管内全域の人工林を対象とした20mメッシュの手入れ不足マップを作成した。さらに、CCマップおよびCRマップの個別利用に加え、両者をカラー合成したマップの活用手順を構築した。これらの解析手法と利用手順について、リモートセンシングやGISに必ずしも精通していない行政の林務担当者と、その業務を支援する航空測量会社などの専門コンサルタント向けに、必要十分な情報を整理した手引書を作成した。本手引書には、自身が開発した手入れ不足林抽出技術に加え、他の課題担当者が開発した山地災害・風倒害の危険度評価技術や人工林施業指針も収録し、「森林経営管理制度」の下で林務担当者が実施すべき業務を体系的に理解・実践できる内容とした。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２ア ｃ ＰＦ２８	消失の危機に直面している天然性木曽ヒノキ林の存在様式の推定	7～9	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	近藤洋史			
研究の概要	長野県木曽谷地域という広域の年輪調査データから樹齢構成復元による林相および更新プロセス推定を行う。これにより400年前のかく乱（伐採）が時空間的にどのように行われたのか、また、伐採後の更新から成林までの時間的経過に伴う動態を明らかにする。今年度、紙媒体の野帳状態の木曽ヒノキ林の年輪調査データのデータベースを構築するとともに、木曽谷地域の旧営林署の図面資料について遡及調査を行い、現在の森林管理署の図面とのリレーション処理を行った。年輪調査データは伐根の年輪数である。伐根の高さまでに成長する期間を求めるため、天然生木曽ヒノキ稚樹を入手して、その成長量を求める。			

様式１　研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２アｄＰＦ１５	変貌する日本林業のミクロデータ分析：農林業センサスと国勢調査を用いて	4～7	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	笹田敬太郎			
研究の概要	農林業センサスは、5年に1度行われる農林業経営体や農山村地域の現状と変化を捉えるための全数調査であり、公的統計のうち重要性が高い基幹統計である。しかし、森林組合に関して経営体区分の不明瞭さなどもあり、森林組合に関する分析・活用は不十分であった。本課題では、農林業センサスの個票データおよび名称データを用いることによって森林組合の抽出・接続を行い、2010年代の森林組合のシェアや地域性について分析を行った。その結果、2019年時点の森林組合数（613）の93.0%（570組合）が捕捉可能となった。2010年代に、森林組合の受託による作業面積は27万haから16万haへ大きく減少している一方、切捨間伐から利用間伐、主伐へと森林整備から素材生産への移行が顕著であった。そのなか、近畿・北陸・山陰を中心に森林組合シェアが高い地域にて素材生産が伸びている傾向がみられた。一方、育林については森林組合が4～5割のシェアを持ちつつ地域差がみられ、植林では一部森林組合シェアが低下する地域もみられた。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２イａ１	樹木・林業病害の実効的制御技術の開発	3～7	交付金	
執筆者名	石原誠			
研究の概要	小課題名：森林や林業に被害を生じる樹木の材質劣化などに関する重要病害の早期診断法や被害軽減に向けた実効的な技術を開発を行う。本年の課題目標は、サクラ類こぶ病の樹種別抵抗性に関わる初期感染様式について解明を試みた。その結果、本病の感染初期は、皮目や葉柄痕などの自然開口部や傷を起点として、膨潤や突出を生じ、これが足場となって、こぶ病巣へと発達するとみられる。この足場形成数とこぶ病巣数には樹種間で違いが見られ、足場形成数が感受性に関与している可能性がある。一方で、道内のハルニレで散見されていた、黄化落葉・師部壊死症の発生は札幌市と苫小牧市内の公園で頻繁に見られ、枝枯れ等により衰弱に至っていること、これがニレ立枯病を誘発している可能性が考えられるので、今後、両者の動向を注視していく必要がある。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２イａＰＦ５０	土着天敵寄生蜂を用いたシイタケ害虫キノコバエ類の総合的生物防除技術の開発	5～7	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	木下晃彦			
研究の概要	食用きのこ栽培に土着天敵の利用を取り込んだ総合的生物防除技術を開発・導入することを目的とする。栽培シイタケの主要な害虫であるキノコバエ類の土着天敵寄生蜂（以下単に寄生蜂）の種多様性・DNAバーコード、害虫と寄生蜂の匂い・光に対する誘引特性、増殖率などの生活史を解明する。これらの成果を、栽培現場で害虫・寄生蜂の在不在を環境DNA によって検出し、かつ寄生蜂を特定防除資材として導入・増強して害虫を防除する技術開発に位置づける。 　本年度は、前年度に行ったRNA発現差解析（幼虫による菌糸摂食の有無）の結果から、有意に高および低発現した遺伝子を調査した。また、環境中のきのこバエの発育ステージの違いによる特異的発現遺伝子を探るため、幼虫、サナギ、成虫のRNA-seq解析を行った。			

様式１　研究概要

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２イａＰＦ５１	侵入樹木病原菌スギ赤枯病菌の全ゲノム配列の解読と遺伝的多様性の解明	5～7	科研費【競】	日本学術振興会
執筆者名	安藤裕萌			
研究の概要	スギ苗木の最重要病害である赤枯病の病原菌は、1900年代初頭に北アメリカから持ち込まれた侵入病害と考えられているが、国内に分布している本病原菌の遺伝的多様性は不明である。前年度までに、1950～1980年代に国内各地で採取された保存菌株を供試して、作成した13座のマイクロサテライトマーカーを用いて遺伝的多様性を把握したところ、11の遺伝子型に分かれた。本年度は、2021年に島根県の４ヵ所、2023年に茨城県の1ヵ所で得られた菌株を供試して、現在国内に分布する遺伝子型の把握を行った。2県5地域で得られた計193菌株の遺伝子型を調査した結果、島根県の4集団と茨城県の1集団はそれぞれ遺伝的に異なる集団であることが示唆された。さらに、茨城県の1集団の主要な遺伝子型は、1950～1980年代に採取された保存菌株の遺伝子型の1つ同一であったことから、現在、国内に分布する本病原菌は拡大造林期に分布していた遺伝子型が維持されている集団があるものの、より多様な遺伝子型が分布していることが示唆された。			

課題番号	課題名	研究期間	予算区分	予算配布元
２イｂＰＦ１３	国産トリュフの林地栽培における技術体系の実証	7～9	政府等委託【公募】	生研支援センター
執筆者名	木下晃彦			
研究の概要	トリュフ菌共生苗木生産技術として社会実装を進めるため、①大型サイズのトリュフ菌根共生苗木の大量生産システムの開発、②トリュフ共生苗木の品質を非破壊で評価する手法の開発、③トリュフ栽培農園の設営に向けた取り組みを進める。企業や行政と連携して、きのこ原木林や薪炭林などで成木へのトリュフ菌共生の実証試験や耕作放棄地をトリュフ栽培園として整備しトリュフ菌共生苗木の植栽試験を行い、栽培園の設営を進める。④これら成果の普及に向けては、マニュアルを作成する。 　本年度は③において、広葉樹成熟林の試験地を選定した。また、菌接種および定着のための土壌調査を実施した。④では、トリュフ苗木植栽地での宿主および土壌採取調査を実施し、マニュアル作成のための項目を挙げた。			

令和７（2025）年の九州地域の森林病虫獣害発生状況

佐山勝彦・安藤裕萌・石原　誠・小高信彦

はじめに：令和７（2025）年の九州地域（九州７県と沖縄県）の森林病虫獣害発生状況を報告する。この報告は、九州地区林業試験研究機関連絡協議会保護専門部会、および著者らに寄せられた情報などを集約したものである。本報告に先立ち、情報をお寄せいただいた関係各位にお礼申し上げる。

虫害：2025 年に九州地域で確認された主な虫害を表－１に示す。2024 年に続き表にあげられたのは、アカギヒメヨコバイ、サカキブチヒメヨコバイ、ソテツシロカイガラムシ、タイワンゴマダラカミキリ、オキナワクワカミキリ、タイワンハムシ、カシノナガキクイムシ、マツカレハ、キオビエダシャク、ホウオウボククチバ、デイゴヒメコバチであった。

マツカレハが、福岡、佐賀、熊本、鹿児島の各県で確認された。マツカレハの被害は数年継続することがあるので、今後も注意が必要である。なお、同属（*Dendrolimus*）のオキナワマツカレハは、トカラ列島（悪石島と宝島）、奄美群島、沖縄諸島に分布し、近年、八重山諸島（石垣島と西表島）でタイリクマツカレハの分布が確認されている（田中ら、2020；綿引ら、2023）。

ヤマダカレハが熊本県で発生し、クヌギ林の葉が食い尽くされる被害があった。本種による被害は 2015～2017 年の３年間にわたり宮崎県で続いたので（上田ら、2016、2017、2018；宮崎県林業技術センター育林環境部、2019）、今後も注意が必要である。

フウノキギンバネスガが、佐賀県で初めて確認された。本種は 2017 年に九州（長崎県、福岡県、鹿児島県）で確認された外来害虫（国外では、台湾、中国、タイに分布）である（柳本ら、2018）。2023 年には山口県で確認された（川元・重中、2025）ほか、兵庫、徳島、香川、愛媛の各県で大発生した（Sakagami et al., 2025）。2025 年には愛知県でも記録されており（菊地ら、2026）、分布を拡大させている。モミジバフウのほか、タイワンフウ（原産地での寄主植物）への被害も国内で確認された（川元・重中、2025）。飼育実験の結果、本種の卵は葉裏の葉脈沿いに産卵されることが判明している（屋宜ら、2021）。

キオビエダシャクが熊本県熊本市の複数箇所で確認された（金谷ら、2026）。熊本市では 2017 年以来の報告になる（上田ら、2018）。本種はまた、大分県南部や宮崎県北部内陸でもイヌマキへの被害が確認され、分布の拡大が懸念される。

宮崎県では、スギザイノタマバエの被害が県南の一部地域で確認されている。

鹿児島県の奄美大島などや沖縄県の沖縄島では、街路樹や群落のソテツでソテツシロカイガラムシによる枯死被害（川口ら、2024）が続いている。本種は東南アジア原産の外来種である。九州本土ではまだ確認されていないが、今後、分布が広がる可能性があるので注意が必要である。

以上の虫害のほかに、佐賀県ではサカキでサカキブチヒメヨコバイの被害が継続している。長崎県では、マツヘリカメムシ（外来種）によるマツ球果への被害が発生した。沖縄県では、前年に続き県内全域で、幼虫がデイゴの葉と実を食害するベニモンノメイガと幼虫がデイゴの茎に食入するオオエグリノメイガが、年中発生している。また、アカギの葉から吸汁するアカ

ギヒメヨコバイが、沖縄島・久米島・伊江島で発生しているが、新たに宮古島への侵入が確認された。

病害：令和 7 年度のマツ材線虫病は、福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、宮崎、鹿児島、沖縄の各県で発生が確認された。大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県の被害量は増加傾向にあり、特に沿岸部や過去に激害地となった地域での被害が目立っている。また、地域によっては被害が急増している場所もあるため、今後の被害拡大に注視する必要がある。

ブナ科樹木萎凋病（通称「ナラ枯れ」）は、福岡、佐賀、長崎、の各県で被害が確認された。

その他の病害について、福岡県ではマツ苗木の葉枯性病害のほか、センダンこぶ病（遠賀川流域）、ナナミノキの茎葉が枯れる細菌性病害の発生が確認された。なお、センダンこぶ病は九州最北端の発生であり、分布域が九州南〜中部から全域へ拡大している可能性がある。植栽後の被害発生を避けるためにも、分布域の詳細な解明が求められる。病名の特定には至っていないが、長崎県において、枝物用のシキミの生産地域で黒しみ斑点病と推測される被害が発生している。沖縄県では様々な樹種で南根腐病の被害が確認された。

獣害：在来種では九州本土でニホンジカ・ニホンノウサギによる造林木被害が引き続き問題となっている。

外来種ではクリハラリスが、熊本県宇土半島や大分県高島では根絶に近づく一方、長崎県の五島列島や壱岐島では高密度で生息し、さらに島原など新規確認がみられている（安田、2026）。また、アライグマが分布を拡大しており、森林総合研究所九州支所の実験林でも確認されている。

南西諸島では森林生態系に深刻な被害を与えるフイリマングース（以下、マングース）対策が転換期を迎えている。2024 年に鹿児島県奄美大島で根絶が宣言され（環境省、2024）、世界的にも評価される成果を上げたことで、沖縄島でも島全域からの根絶が現実的目標となっている。世界自然遺産地域を対象とした「第 4 期沖縄島北部地域におけるマングース防除実施計画」が 2026 年度より開始され、遺産地域と隣接する名護市における今後の対策について検討されている（環境省沖縄奄美自然環境事務所・沖縄県、2026）。また、改正外来生物法の施行により、地方自治体による外来種防除が今後ますます活発化すると見込まれ、名護市以南や本部半島におけるマングース対策の検討が始まっている。

おわりに：九州地域は外来生物が侵入する頻度が高く、病虫獣害の被害拡大を阻止するためにも、今後も引き続き関係各位の情報収集・提供へのご協力をお願いする。

なお、この報告は、九州の森と林業 No.157（2026 年 9 月発行）の様式と表現を一部改変し、引用文献と追加情報などを加えたものである。

引用文献

金谷整一・松永道雄・清水俊之・青木翔・山川博美・山本泰代・飯田啓達・佐山勝彦（2026）2025 年秋季の熊本市におけるキオビエダシャク（チョウ目：シャクガ科）の確認. 九州森林研究 79: 133–134,

環境省（2024） 奄美大島における特定外来生物フイリマングースの根絶の宣言について. 環境省報道発表資料. https://www.env.go.jp/press/press_03661.html （2026 年 7 月 27 日閲覧）
環境省沖縄奄美自然環境事務所・沖縄県（2026）第 4 期沖縄島北部地域におけるマングース防除実施計画（令和 8（2026）年度－令和 17（2035）年度）. https://kyushu.env.go.jp/okinawa/content/000397230.pdf （2026 年 7 月 27 日閲覧）
川口エリ子・米森正悟・坂巻祥孝・高木貞夫（2024）奄美大島でみられたソテツシロカイガラムシ（新称）（半翅目：マルカイガラムシ科）の同定とソテツの被害発生状況. 樹木医学研究 28: 3–9.
川元裕・重中良之（2025）山口県で発生したフウノキギンバネスガについて. 月刊むし（650): 32–33.
菊地波輝・岩下幸平・長谷川道明（2026）愛知県初記録の外来種フウノキギンバネスガ *Thecobathra lambda* (Moriuti, 1963)（鱗翅目スガ科）豊橋市自然史博物館研報 (36): 79–81.
宮崎県林業技術センター育林環境部（2019）宮崎県北部地域におけるヤマダカレハの異常発生について. 森林防疫 68: 64–66.
Sakagami, K, Tomura S, Yagi S, Shimizu S (2025) Distribution range, genetic structure, and natural enemies of an invasive pest moth *Thecobathra lambda* (Lepidoptera: Yponomeutidae) damaging *Liquidambar* trees in Japan. Applied Entomology and Zoology 61: 23–33.
田中絵里・綿引大祐・吉松慎一・渡久地彩子（2020）日本初記録の害虫種タイリクマツカレハ（チョウ目：カレハガ科）（新称）を含む日本産 *Dendrolimus* 属 4 種の識別法. 日本応用動物昆虫学会誌 64: 27–36.
上田明良・小坂肇・高畑義啓・安田雅俊（2016）平成 27 年の九州地域の森林病虫獣発生状況. 九州の森と林業 117: 4–5.
上田明良・小坂肇・高畑義啓・安田雅俊（2017）平成 28 年の九州地域の森林病虫獣発生状況. 九州の森と林業 121: 4–5.
上田明良・小坂肇・高畑義啓・安田雅俊（2018）平成 29 年の九州地域の森林病虫獣発生状況. 九州の森と林業 125: 4–5.
屋宜禎央・外村俊輔・野田亮・楢﨑康二・広渡俊哉（2021）スガ科 3 種の 1 齢幼虫の潜葉習性. 蛾類通信 (299): 645–651.
柳本和哉・楢﨑康二・坂巻祥孝・上田明良・後藤秀章（2018）国内初記録のギンバネスガの 1 種（*Thecobathra lambda* (Moriuti)，フウノキギンバネスガ（新称））によるモミジバフウ（*Liquidambar styraciflua*）の被害について. 森林防疫 67: 5–8.
綿引大祐・田中絵里・吉松慎一（2023）日本産マツカレハ属（チョウ目カレハガ科）4 種の概説. 森林防疫 72: 22–32.
安田雅俊（2026）九州のクリハラリス（タイワンリス）. 九州の森と林業 155: 1–3.

表－１　令和７（2025）年に九州地域で確認された主な虫害

害虫名	発生地	樹種	環境
【カメムシ目】			
アカギヒメヨコバイ	沖縄県（沖縄島・久米島・伊江島・＊宮古島）	アカギ	街路樹 植栽木
サカキブチヒメヨコバイ	佐賀県	サカキ	植栽木
ソテツシロカイガラムシ	鹿児島県（奄美大島・喜界島・徳之島）、沖縄県（沖縄島）	ソテツ	街路樹 群落
クスベニヒラタカスミカメ	長崎県	クスノキ	街路樹
マツヘリカメムシ	長崎県	マツ	植栽木
【コウチュウ目】			
タイワンゴマダラカミキリ	沖縄県（沖縄島）	ウラジロエノキ	植栽木
オキナワクワカミキリ	沖縄県（沖縄島）	ウラジロエノキ	植栽木
タイワンハムシ	沖縄県（沖縄島北部）	ハンノキ	天然林
カシノナガキクイムシ	福岡県、佐賀県、長崎県	マテバシイ、ツブラジイ（コジイ）、スダジイ、コナラ、クヌギ	天然林 植栽木
【チョウ目】			
フウノキギンバネスガ	＊佐賀県	モミジバフウ	街路樹
マツカレハ	福岡県、佐賀県、熊本県（苓北町）、鹿児島県	クロマツ	海岸林 植栽木
ヤマダカレハ	熊本県（菊池市）	クヌギ	二次林
キオビエダシャク	熊本県（熊本市）、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県	イヌマキ	植栽木
ホウオウボククチバ	沖縄県（沖縄島）	ホウオウボク	街路樹
ベニモンノメイガ	沖縄県	デイゴ	街路樹
オオエグリノメイガ	沖縄県	デイゴ	街路樹
【ハチ目】			
デイゴヒメコバチ	沖縄県	デイゴ	街路樹

*被害が初めて確認された発生地

万膳１号収穫試験地における林分構造の変化

高橋與明・近藤洋史・笹田敬太郎

はじめに：万膳１号収穫試験地は、皆伐用材林施業団によって施業した場合のヒノキ人工林の成長量・収穫量をはじめとする統計資料を収集するとともに、林分構造の推移を解明する目的で1952年11月に設置された。2025年12月に定期調査を実施した結果を報告する。

材料と方法：本試験地は、鹿児島森林管理署 1044 林班け小班および 1047 林班ほ小班に設定されている。樹種は1922（大正 11）年 3 月に植栽されたヒノキである。標高は720m、標準区の面積は 0.163ha、間伐区の面積は 0.103ha である。方位は北西、傾斜は 5 度～10 度、地質は輝石安山岩、土壌型は $Bl_{(d-m)}$である。2025 年 12 月に収穫試験地施行要綱（3 林野業一第 29 号）に即した定期調査を行った。

調査結果:図１に林分構造の変化を示す。調査時の林齢は 105 年生であり、前回の調査（2013 年 12 月）からの 12 年間で、平均樹高(a)の増加および立木密度(c)の減少は緩やかである一方、平均直径の成長は衰えることはなかった。この平均直径成長が、幹材積（b）の増加および定期平均成長量・率(d)の増加に大きく影響したと考えられる。当該林分は老齢でもなお林分成長が認められる貴重な知見が得られており、今後も定期的な調査が必要である。

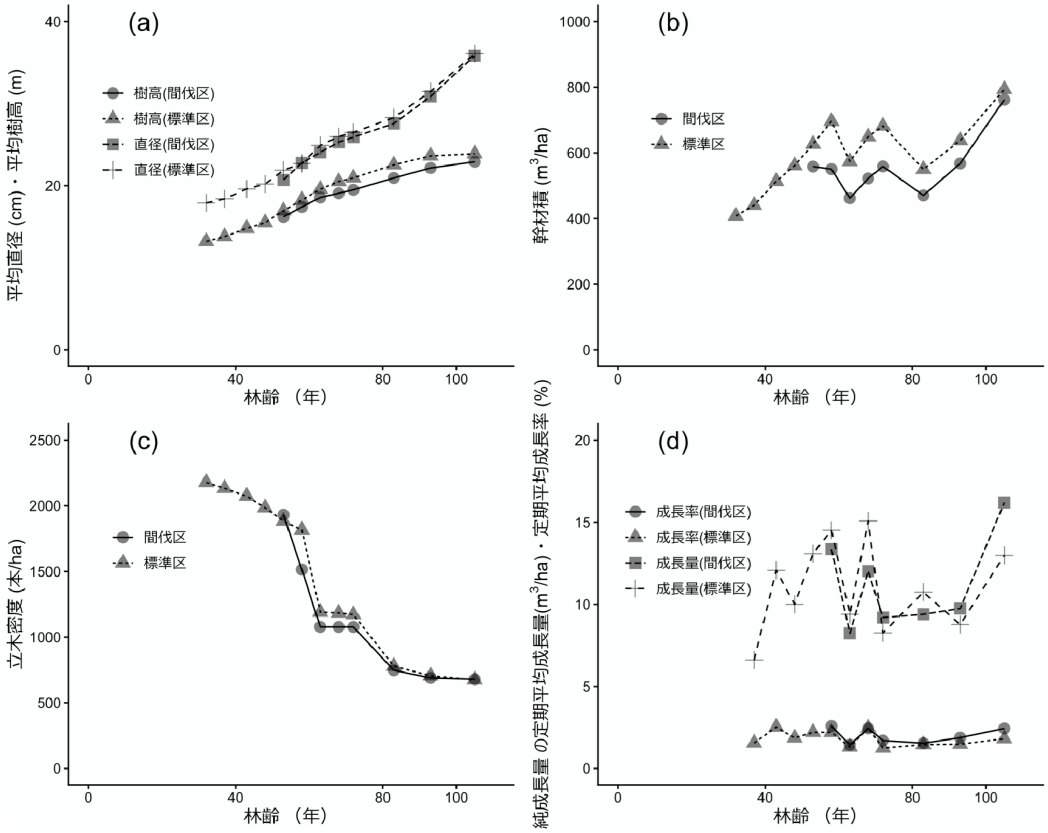


図-1. （a）平均直径および平均樹高の成長、（b）幹材積の成長、（c）立木密度の推移、（d）幹材積の純成長量の定期平均成長量と定期平均成長率

令和7年度の発表業績

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
近藤洋史、斉藤正一	ナラ枯れ被害に対応した東北地方の森林植生マップの作成	山形大学紀要(農学)、19(4): 139-147	2025.02(*)
笹田敬太郎	林業動静年報林政編　近年の事業動向からみる森林組合が果たしている役割と課題	山林、1690、54-62	2025.03(*)
笹田敬太郎	やりがい創出と技術力・安全性向上を図る各主体の挑戦―広島県の事例―	「緑の雇用」事業の評価に関する調査報告書(令和６年度)： 156-173	2025.03(*)
齋藤英樹、田中真哉、髙橋正義、西園朋広、**髙橋與明**	航空機LiDARデータによる樹冠長の推定に関する検討－福岡県久留米市の事例－	関東森林研究、76: 17-20	2025.03(*)
田中亘、**笹田敬太郎**、猪俣雄太、高山範理、御田成顕、片田陽菜、山口広子、都築伸行	林業作業者における安全行動と技術習得に関する意識	関東森林研究、76: 5-8	2025.03(*)
Shin-Taro Saiki、Anna Ilek、**Yuho Ando**、Norio Sahashi、Kazuki Nanko	Impact of Pathogenic Fungi on Leaf Surface Wettability: A Case Study of Erysiphe castaneigena(植物病原菌が葉面の濡れ性に及ぼす影響：Erysiphe castaneigena(クリうどんこ病菌)を事例として)	Ecohydrology、18(2): e2755、https://doi.org/10.1002/eco.2755	2025.03(*)
Ryuichi Takeshige、Kyaw Kyaw Htoo、Masanori Onishi、Farhadur Md. Rahman、Kazuhiko Hoshizaki、Hideyuki Ida、Masae Iwamoto Ishihara、Akira Itoh、Takayuki Kaneko、Ayumi Katayama、Shigeo Kuramoto、Hiroko Kurokawa、Masayuki Maki、Kazuhiko Masaka、Tatsuro Nakaji、Masahiro Nakamura、Naoyuki Nishimura、Mahoko Noguchi、Atsushi Sakai、Atsushi Takashima、Naoaki Tashiro、Naoko Tokuchi、**Hiromi Yamagawa**、Yusuke Onoda	High-resolution digital canopy height models, terrain models, ortho-mosaic photos, and canopy tree crown shapes derived from UAV-borne LiDAR at 22 tree census plots across Japanese natural forests	Ecological Research、40(4): 657-670、https://doi.org/10.1111/1440-1703.12555	2025.03(*)
木下晃彦	きのこシリーズ(28)エノキタケ	九州の森と林業、151: 4	2025.03(*)
東川航	夏の森で赤トンボを探索するーナツアカネ未成熟成虫による森林利用の予備的調査－	昆虫と自然、60(4): 31-35	2025.04.
鈴木圭	食塩水でメスジカを誘引	森林と林業、2025年4月号: 14-15	2025.04.
勝木俊雄、山下香菜、鳥居正人、**安藤裕萌**、**石原誠**、**酒井佳美**、**髙橋與明**	簡易な写真測量を用いたメタセコイア切株のオルソ画像の合成	樹木医学研究、29(2): 112-113	2025.04.
服部友香子、升屋勇人、市原優、**安藤裕萌**	スギ・ヒノキ・カラマツ苗立枯病菌Fusarium oxysporumの分類学的再評価	樹木医学研究、29(2): 120-121	2025.04.
Taiki Mori	Tea Bag Index Revisited: Risks of Misleading Decomposition Patterns	ECOLOGY LETTERS、28(4): e70010、https://doi.org/10.1111/ele.70010	2025.04.
鈴木圭	食塩水でメスジカを引き寄せる	森林技術、997: 24-27	2025.05.
服部友香子、市原優、**安藤裕萌**、升屋勇人	暗色枝枯病に関連するNeofusicoccum属菌の分子系統学的位置の解明	日本菌学会大会講演要旨集、69: 87(D-18)	2025.05.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
久保田多余子、長谷川陽一、小田智基、木村恵、久米朋宣、志賀薫、陣川雅樹、鈴木智之、髙田乃倫予、田中浩、新田響平、宗岡寛子、**山川博美**、山下詠子	日本森林学会第135 回大会ダイバーシティ推進委員会企画 「若手雇用問題についての情報交換」開催報告	日本森林学会誌、107(3): 64-69、https://doi.org/10.4005/jjfs.107.64	2025.05.
Shin'ichi Iida、Takanori Shimizu、Koji Tamai、**Naoki Kabeya**、Akira Shimizu、Makoto Araki、Yasuhiro Ohnuki、Eriko Ito、Jumpei Toriyama、Tanaka Kenzo、Tayoko Kubota、Tsutomu Yamanaka、Sophal Chann、Delphis Levia	Drought-induced decline in transpiration in a dry deciduous forest in Cambodia	Japan Geoscience Union Meeting 2025(日本地球惑星科学連合2025年大会)、AHW28-P01	2025.05.
勝木俊雄	桜こぼれ話(7) ツクシヤマザクラの変異	Makino、131: 6-7	2025.05.
中村慎崇	地下に子実体を形成する根部内生菌Hymenoscyphus sp. (ビョウタケ目)の集団遺伝構造	日本菌学会大会講演要旨集、69: 72(C-11)	2025.05.
Taiki Mori、Senhao Wang、Cong Wang、Wei Zhang、Jiangming Mo	Towards distinguishing biotic and abiotic contributions to phenol oxidase activity: Current understanding and future perspective	APPLIED SOIL ECOLOGY、209: 106047、https://doi.org/10.1016/j.apsoil.2025.106047	2025.05.
森大喜、橋本昌司、阪田匡司	土壌のメタン吸収量算出方法確立に向けた展望	日本生態学会九州地区会三学会合同大会2025、P08	2025.05.
安藤裕萌、山下聡、水野尊文、佐藤博俊、市岡孝朗、ShirleyChip	マレーシア国サラワク州におけるCookeina属菌2種の遺伝的多様性	日本菌学会大会講演要旨集、69: 89(D-22)	2025.05.
小高信彦、渡久地豊、長井隆、中田勝士、新里和野、宮平良成、伊藤麻衣、有働竜也、椎野風香	沖縄島固有種ノグチゲラの繁殖個体数の推定と保全の展望	沖縄生物学会大会、62: O-10	2025.05.
安田雅俊	動物のいる風景1「変わる立田山の生態系」	熊本日日新聞、2025年5月30日: 13	2025.05.
黒川潮	日英砂防用語解説：第8回砂防ダム・治山ダム	砂防学会誌、78(1): 58	2025.05.
鷹尾元、**髙橋與明**	手入れ不足の人工林を探し出す	森林と林業、2025年5月号: 14-15	2025.05.
上田明良、後藤秀章、**佐山勝彦**、**金谷整一**、**安田雅俊**	特定外来生物クリハラリスの生息する小島と生息しない対岸の半島における昆虫相の比較	森林総合研究所研究報告、24: 151-170	2025.06.
勝木俊雄	就任にあたって	九州の森と林業、152: 1	2025.06.
笹田敬太郎、鹿又秀聡、横田康裕、御田成顕、宗岡寛子、久保山裕史、平野悠一郎、都築伸行	民有林林道の厳しい維持管理実態とそれを克服するための方策	森林総合研究所研究成果選集2025(令和7年版)、24-25	2025.06.
笹田敬太郎	統計データからみる2010年代の日本の林業、九州の林業	九州の森と林業、152: 2-4	2025.06.
鈴木圭・**安藤裕萌**	春に少なく夏に多いニホンモモンガの子の数	森林総合研究所研究成果選集2025(令和7年版)、12-13	2025.06.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
東川航	DNAからせまる赤トンボの生息地ネットワーク保全	季刊森林総研、69: 16-17	2025.06.
Suzuki Kei K, **Yamagawa Hiromi**, **Mori Taiki**	Evidence of sika deer visiting coastal area on Tanegashima Island	Research in Marine Sciences、10(2): 761-768	2025.06.
SAKATA Tadashi、**MORI Taiki**、HASHIMOTO Shoji	Portable gas analyzer for stored gas samples: A rapid alternative to gas chromatograph for determining gas concentrations in closed chamber techniques(ポータブルガス分析計による保存されたガスサンプルの分析：クローズドチャンバー法におけるガスクロマトグラフによるガス濃度測定を代替するより迅速な手法の提案)	森林総合研究所研究報告(Bulletin of the Forestry and Forest Products Research Institute)、24(2): 95-101、https://doi.org/10.20756/ffpri.24.2_95	2025.06.
大貫靖浩、小林政広、**稲垣昌宏**、釣田竜也、**清水晃**、**壁谷直記**、清水貴範	鹿北流域試験地3号沢における土層厚分布と土壌物理特性	森林総合研究所研究報告、24(2): 133-142、https://doi.org/10.20756/ffpri.24.2_133	2025.06.
Taiki Mori、Senhao Wang、Wei Zhang、Jiangming Mo	Decoding a Soil Microbial Strategy: Prioritizing Quantity Over Quality of Phosphatases	ECOSYSTEMS、28(3): 27、https://doi.org/10.1007/s10021-025-00970-z	2025.06.
Yuki Akaike、Satoshi Ito、**Hiromi Yamagawa**、Kiwamu Yamagishi、Ryoko Hirata	The effects of patch age and edges on understory tree distribution in an uneven-aged conifer plantation formed by small-scale clearcutting	Landscape and Ecological Engineering、21(4): 655-665、https://doi.org/10.1007/s11355-025-00663-8	2025.06.
森大喜、小野賢二、倉本惠生、野口宏典、平田泰雅	根からの養分吸収が難しい環境で育つマングローブは、葉から養分を吸収する能力が高いのか？	日本熱帯生態学会年次大会、35: P22	2025.06.
上田浩一、**安田雅俊**	同一の罠による外来種クリハラリス3頭の同時捕獲	長崎県生物学会誌、96: 44-46	2025.06.
安田雅俊、森澤猛	長崎市内でカワウソのキモ(獺肝)を取り扱っていた薬種業者について	長崎県生物学会誌、96: 32-35	2025.06.
上田明良、後藤秀章、**佐山勝彦**、**金谷整一**、**安田雅俊**	特定外来生物クリハラリスの生息する小島と生息しない対岸の半島における昆虫相の比較	森林総合研究所研究報告、24(2): 151-170、https://doi.org/10.20756/ffpri.24.2_151	2025.06.
安田雅俊	動物のいる風景2「シカとイノシシ 増える個体数」	熊本日日新聞、2025年6月27日: 15	2025.06.
Masahiko Nakazawa、Dai Otsuka、Seishiro Taki、**Chikashi Yoshida**、Hiroko Muneoka、Masahiro Iwaoka、Yasuo Nakashima、Atsushi Matsui、Yoshihisa Kondo	Development of automated driving multi-operation technology for forwarders(自動走行フォワーダのマルチオペレーション技術の開発)	The 57th International Symposium of Forest Mechanization、: 303	2025.06.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
木下晃彦	地球温暖化に適応したシイタケ品種の開発	糸状菌遺伝子研究会例会プログラム・講演要旨、45: 9-10	2025.06.
高山範理、田中亘、鄭芯蕊、**笹田敬太郎**、都築伸行	現場とマニュアルのギャップを埋める：性格特性と安全意識に基づく林業安全管理	日本森林保健学会学術総会(2025)、15: 20	2025.06.
赤池友樹、伊藤哲、**山川博美**、**山岸極**、平田令子	針葉樹小面積皆伐施業地におけるUAV-LiDARを用いた階層構造の把握	日本景観生態学会金武大会発表要旨集、35: 24(P08)	2025.06.
伊藤哲、川口千尋、赤池友樹、**山川博美**、**山岸極**、平田令子	スギ人工林における樹木種多様性の林齢および景観構造依存性：長伐期・異齢林施業の事例から	日本景観生態学会金武大会発表要旨集、35: 12(B04)	2025.06.
鈴木圭	モモンガ、マグロ、イワシそしてシカ	哺乳類科学、65(2): 209-213	2025.07.
Sumika Ogo、Keiko Akama、**Noritaka Nakamura**、Takuya Manaka、Takashi Yamanaka	Symbiosis with Astraeus hygrometricus upregulates cesium and potassium uptake by Pinus densiflora seedlings	Journal of Environmental Radioactivity、287: 107722、https://doi.org/10.1016/j.jenvrad.2025.107722	2025.07.
Qingmin Han、Norihisa Kusumoto、**Seiichi Kanetani**、Yoshihisa Suyama、Yuki Tsujii、Daisuke Kabeya、Yoshihiko Tsumura、Kentaro Uchiyama	Photoprotective pigment plasticity and cold acclimation strategies in Cryptomeria japonica across two common gardens.	Forestry Research、5: e015	2025.07.
安田雅俊	動物のいる風景3「絶滅危機 ニホンカモシカ救おう」	熊本日日新聞、2025年7月25日: 20	2025.07.
Suzuki Kei K	Arboreal uses of Plestiodon japonicus in Kumamoto Prefecture, Kyushu Island Japan	Current Herpetology、44(2): 204-209	2025.08.
籾山智咲、伊藤哲、原谷日菜、**山岸極**、**山川博美**、赤池友樹、平田令子	下刈り期間中の競合植生の変化がスギ植栽木の成長に及ぼす影響	日本森林学会誌、107(8): 179-185、https://doi.org/10.4005/jjfs.107.179	2025.08.
勝木俊雄	桜こぼれ話(8) オオシマザクラの野生化	Makino、132: 6-7	2025.08.
Sakae Horisawa、**Yoshimi Sakai**、Mayuko Jomura、Shin Ugawa、Naoko Tokuchi、Tetsuya Inagaki	Subterranean Wood Decomposition and Microbial Community Dynamics across Forest Sites in Japan	International Conference on Biodiversity and Future Biology	2025.08.
Futoshi Ishiguri、Ikumi Nezu、Yusuke Takahashi、Sarkhad Murzabyek、Kana Yamashita、**Toshio Katsuki**、Kouhei Otsuka、Jyunichi Ohshima、Shinso Yokota	Effects of radial growth rate on wood properties and lumber qualities in plantation-grown Picea koyamae	Journal of Wood Science、71: 49、https://doi.org/10.1186/s10086-025-02222-z	2025.08.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
Masahito Ueyama、Yuta Takao、Hiromi Yazawa、Makiko Tanaka、Hironori Yabuki、Tomo'omi Kumagai、Hiroki Iwata、Md. Abdul Awal、Mingyuan Du、Yoshinobu Harazono、Yoshiaki Hata、Takashi Hirano、Tsutom Hiura、Reiko Ide、Sachinobu Ishida、Mamoru Ishikawa、**Kenzo Kitamura**、Yuji Kominami、Shujiro Komiya、Ayumi Kotani、Yuta Inoue、Takashi Machimura、Kazuho Matsumoto、Yojiro Matsuura、Yasuko Mizoguchi、Shohei Murayama、Hirohiko Nagano、Taro Nakai、Tatsuro Nakaji、Ko Nakaya、Shinjiro Ohkubo、Takeshi Ohta、Keisuke Ono、Taku M. Saitoh、Ayaka Sakabe、Takanori Shimizu、Seiji Shimoda、Michiaki Sugita、Kentaro Takagi、Yoshiyuki Takahashi、Naoya Takamura、Satoru Takanashi、Takahiro Takimoto、Yukio Yasuda、Qinxue Wang、Jun Asanuma、Hideo Hasegawa、Tetsuya Hiyama、Yoshihiro Iijima、Shigeyuki Ishidoya、Masayuki Itoh、Tomomichi Kato、Hiroaki Kondo、Yoshiko Kosugi、Tomonori Kume、Takahisa Maeda、Shoji Matsuura、Trofim Maximov、Takafumi Miyama、Ryo Moriwaki、Hiroyuki Muraoka、Roman Petrov、Jun Suzuki、Shingo Taniguchi、Kazuhito Ichii	The JapanFlux2024 dataset for eddy covariance observations covering Japan and East Asia from 1990 to 2023	EARTH SYSTEM SCIENCE DATA、17(8): 3807-3833、https://doi.org/10.5194/essd-17-3807-2025	2025.08.
安田雅俊、岡部晋也	九州におけるヒメヒミズの生息記録について	日本哺乳類学会大会プログラム・講演要旨集(2025)、: 86(OB-01)	2025.08.
安田雅俊、田村典子	日本の動物園における過去のリス科動物の飼育記録の分析と外来リス類のリスク管理	哺乳類科学、65(2): 111-128	2025.08.
森澤猛、**安田雅俊**	小型哺乳類用の保定器具の製作	哺乳類科学、65(2): 143-147	2025.08.
安田雅俊	動物のいる風景4「幻のヒメヒミズ 関心向けて」	熊本日日新聞、2025年8月29日: 15	2025.08.
Hisanori Harayama、Shiro Okuda、**Hiromi Yamagawa**、Takami Saito、Daisuke Kabeya、Hiroyuki Tobita	Evaluating the Effects of Glutathione and Controlled-Release Fertilizer on the Height Growth of Cryptomeria japonica D. Don Seedlings Accounting for Topography and Vegetation	Forests、16(9): 1407、https://doi.org/10.3390/f16091407	2025.09.
大貫靖浩、釣田竜也、小林政広、**稲垣昌宏**、**清水晃**、清水貴範、**壁谷直記**	北九州低山帯の小流域における土層厚分布と土壌物理特性－微地形に着目して－	日本地理学会秋季学術大会発表要旨集(2025)	2025.09.
東川航	針葉樹人工林の源流域におけるムカシトンボ幼虫の生息要因	日本陸水学会札幌大会講演要旨集、89: 153(P-30)	2025.09.
中村慎崇	国産トリュフ栽培に向けた研究の進捗：遺伝解析が示す交配プロセス	日本微生物資源学会大会要旨集、31: 69(S-2)	2025.09.
山岸極、伊藤哲、原谷日菜、**山川博美**、平田令子	競合状態C1～C4におけるスギ幼齢木の樹冠被圧率と幹成長低下率の推定	日本森林学会誌、107(9): 208-213、https://doi.org/10.4005/jjfs.107.208	2025.09.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
飯田真一、清水貴範、玉井幸治、**壁谷直記**、**清水晃**、荒木誠、大貫靖浩、鳥山淳平、伊藤江利子、久保田多余子、田中憲蔵、山中勤、チャンソファル、レヴィアデルフィス	カンボジア乾燥落葉林における林分蒸散量の長期変動	水文・水資源学会研究発表会要旨集(2025)、PS-1-47	2025.09.
Kei K Suzuki、Chiyo Takahashi	The observation of mating-related behaviours of Japanese giant flying squirrel (Petaurista leucogenys) in Kyushu Island	Japanese Journal of Zoo and Wildlife Medicine(日本野生動物医学会誌)、30(2): 23-32	2025.09.
小高信彦、渡久地豊、長井隆、中田勝士、新里和野、宮平良成、伊藤麻衣、有働竜也、庄嶋菜月	沖縄島固有種ノグチゲラ個体群の現状と保全の展望：マングース対策の重要性について	日本鳥学会大会講演要旨集(2025)、: 54-55(A26)	2025.09.
武山智博、岩見恭子、富田直樹、兵藤不二夫、水田拓、関伸一、**小高信彦**	羽標本の安定同位体分析から探る沖縄島の鳥類の食性	日本鳥学会大会講演要旨集(2025)、: 64(B14)	2025.09.
安田雅俊	幻のヒメヒミズは今どこに？	熊本野生生物研究会機関誌、40(3): 2	2025.09.
安田雅俊	動物のいる風景5「特定外来生物 早期対策が鉄則」	熊本日日新聞、2025年9月26日: 14	2025.09.
佐山勝彦、**安藤裕萌**、**石原誠**、**安田雅俊**	令和6年(2024)年の九州地域の森林病虫獣害発生状況	九州の森と林業、153: 4-5	2025.09.
木下晃彦	シイタケの発生温度を判別するDNAマーカーの開発	九州の森と林業、153: 1-3	2025.09.
金谷整一、長友敬祐、清田大誠、田島尚、**松永道雄**	熊本県におけるリュウキュウオオスカシバの2例目の記録	蛾類通信、315: 432	2025.09.
Ujino-Ihara T, Uchiyama K, Kanetani S, Suyama Y, Tsumura Y	Transcriptome differentiation in Cryptomeria japonica trees with different origins growing in the north and south of Japan	PLOS One、20 (9): e0320549	2025.09.
Akira Ueda、Hiroki Itô、**Seiichi Kanetani**	Evaluation of strip-cutting to conserve carabid beetle diversity in a conifer plantation.	Entomological Science、28: e12611	2025.10.
Shoji Hashimoto、Elisa Bruni、Boris Ťupek、Naoyuki Yamashita、Jumpei Toriyama、**Taiki Mori**、Akihiro Imaya、Bertrand Guenet、Akihiko Ito、Aleksi Lehtonen	Mining global soil carbon datasets: can modern machine learning uncover the missing pieces of process-based models?	Environmental Research Letters、20(10)、https://doi.org/10.1088/1748-9326/adfe83	2025.10.
野宮治人、桑野泰光	スギ皆伐後30年が経過した造林未済地の林分構造の推移：福岡県八女市星野村の事例	九州森林学会大会発表プログラム、81: 造林Ⅰ513	2025.10.
高橋與明、**近藤洋史**、**笹田敬太郎**	仁川第一号収穫試験地における林分構造の変化	森林総合研究所九州支所年報(令和7年版)、37: 24	2025.10.
高橋與明、**近藤洋史**、**笹田敬太郎**	夏木収穫試験地における林分構造の変化	森林総合研究所九州支所年報(令和7年版)、37: 23	2025.10.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
壁谷直記、一柳錦平、RAHMAWANIrfanTsany、長岡輝、**清水晃**、清水貴範、飯田真一	d値の季節変動を利用した江津湖周辺の湧水等の平均通過時間の推定	九州森林学会大会発表プログラム、81: 防災608	2025.10.
Taiki Mori	The newly proposed threshold for enzymatic stoichiometry: A reliable solution?	Soil Biology and Biochemistry、209: 109886、https://doi.org/10.1016/j.soilbio.2025.109886	2025.10.
Taiki Mori	The Problem Is Not How We Calculate Enzyme Stoichiometry Threshold-It Is That We Calculate It	GLOBAL CHANGE BIOLOGY、31(10): e70519、https://doi.org/10.1111/gcb.70519	2025.10.
吉田智佳史	開発したゴムクローラ式クラムバンクスキッダによる全木集材作業の生産性：九州地域におけるヒノキ皆伐地の事例	九州森林学会大会発表プログラム、81: 利用808	2025.10.
勝木俊雄、**山川博美**、佐藤健誠	宮崎県西臼杵地域における実生苗植栽試験によるシカ嗜好性の検証	九州森林学会大会発表プログラム、81: 造林Ⅰ510	2025.10.
赤池友樹、伊藤哲、**山川博美**、平田令子	植栽樹種の違いが人工林の下層植生に及ぼす影響－24年生クスノキ林、イチイガシ林およびスギ林の比較－	植生学会大会講演要旨集、30: 54(P07)	2025.10.
山川博美	iPhone搭載LiDARを用いて測定された胸高直径の測定精度	森林総合研究所九州支所年報(令和7年版)、37: 21-22	2025.10.
稲垣昌宏、鳥山淳平、**酒井佳美**	人工林伐採後の放棄地における根系発達－根系の展開可能範囲に着目して－	九州森林学会大会発表プログラム、81: 防災・立地611	2025.10.
伊藤哲、**山岸極**、**山川博美**、平田令子、赤池友樹	被圧による樹冠発達抑制がその後の成長を支配してしまう条件：臨界相対樹冠量	九州森林学会大会発表プログラム、81: 造林Ⅰ508	2025.10.
山岸極、伊藤哲、**山川博美**、平田令子	主軸伸長履歴を用いたスギ幼齢木の樹冠枝量の推定	九州森林学会大会発表プログラム、81: 造林Ⅰ505	2025.10.
酒井佳美	樹木根の分解における直径の影響と地域特性	九州森林学会大会発表プログラム、81: 防災・立地609	2025.10.
川西あゆみ、**酒井佳美**、石塚成宏、相澤州平、鳥山淳平、今矢明宏	森林土壌インベントリデータを用いた根株の形状と分解度分布の可視化：スギ・ヒノキを中心とした初期解析	関東森林学会大会講演要旨集、15: 立地1	2025.10.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
Yuhei Yamamoto、Kazuhito Ichii、Wei Yang、Yui Shikakura、Youngryel Ryu、Minseok Kang、Shohei Murayama、Su-Jin Kim、Yuta Takao、Masahito Ueyama、Tomoko Kawaguchi Akitsu、Hiroki Iwata、Hojin Lee、Junghwa Chun、Atsushi Higuchi、Takashi Hirano、Areum Kim、Hyun Seok Kim、**Kenzo Kitamura**、Yuji Kominami、Kazuho Matsumoto、Jun Suzuki、Kentaro Takagi、Yoshiyuki Takahashi、Satoru Takanashi、Hideaki Takenaka、Shingo Taniguchi、Yukio Yasuda	Modeling diurnal gross primary production in East Asia using Himawari-8/ 9 geostationary satellite data	REMOTE SENSING OF ENVIRONMENT、328: 114866、https://doi.org/10.1016/j.rse.2025.114866	2025.10.
安田雅俊	各論16.5. クリハラリス	野生動物の保全と管理の事典(朝倉書店、461項)、: 434-436	2025.10.
安田雅俊	動物のいる風景6「観光スポットの「ゾウの木」」	熊本日日新聞、2025年10月31日: 20	2025.10.
Kazumichi Fujiwara、Atsushi Toyoda、**Toshio Katsuki**、Yutaka Sato、Bhim B Biswa、Takushi Kishida、Momi Tsuruta、Yasukazu Nakamura、Takako Mochizuki、Noriko Kimura、Shoko Kawamoto、Tazro Ohta、Ken-Ichi Nonomura、Hironori Niki、Hiroyuki Yano、Kinji Umehara、Chikahiko Suzuki、Tsuyoshi Koide	Chromosome-scale genomes of two wild flowering cherries (Cerasus itosakura and Cerasus jamasakura) provide insights into structural evolution in Cerasus(サクラ属の構造進化に関する考察に供する2種の野生種(エドヒガン・ヤマザクラ)の染色体スケールのゲノム)	DNA Research、32(6): dsaf031、https://doi.org/10.1093/dnares/dsaf031	2025.10.
佐山勝彦、**安藤裕萌**、**石原誠**、**安田雅俊**	令和6年(2024)年の九州地域の森林病虫獣害発生状況	森林総合研究所九州支所年報(令和7年版)、37: 17-20	2025.10.
佐山勝彦、**東川航**、**木下晃彦**、中村慎崇	センチコガネは外生菌根菌の胞子散布者になり得るのか？	九州森林学会大会発表プログラム、81: 保護703	2025.10.
Kenichi Ozaki、Mariko Shizuki、**Katsuhiko Sayama**、Naoki Inari、Shigeho Sato	Retention harvesting experiments in plantations reveal the importance of dispersed retention for canopy beetle conservation in northern Japan（北日本の人工林保持伐実験における単木保持は樹冠の甲虫類の保全に重要）	Biodiversity and Conservation、34: 4799-4818、https://doi.org/10.1007/s10531-025-03180-0	2025.10.
木下晃彦、松尾歩、宮崎和弘、陶山佳久	シイタケ111品種のqTF1遺伝型と子実体発生温度との関係	九州森林学会大会発表プログラム、81: 林産・利用805	2025.10.
黒川潮、岡田康彦	伐採跡地に侵入する先駆性樹種による斜面崩壊防止機能の評価	九州森林学会大会発表プログラム、81: 防災605	2025.10.
山崎桃花、作田耕太郎、**金谷整一**	応力波伝播速度測定法によるブナ生立木の樹幹腐朽診断	九州森林学会大会発表プログラム、81: 517（造林II）	2025.10.
金谷整一、長友敬祐、清田大誠、**佐山勝彦**、田島尚、戸田敬、**松永道雄**	森林総合研究所九州支所立田山実験林内のヤエクチナシおよびクチナシで発見された害虫類（II）	九州森林学会大会発表プログラム、81: 709（保護）	2025.10.
越地森羅、伊藤哲、**山川博美**、平田令子、赤池友樹	モミ･ツガ･広葉樹混交林における主要構成樹種の長期動態－斜面位置に注目した解析－	九州森林学会大会発表プログラム、81: 造林I、514	2025.10.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
山川博美、伊藤哲	広葉樹林化のための更新判断：伐採前の前生稚樹密度から予測する	九州森林学会大会発表プログラム、81: 造林I、512	2025.10.
赤池友樹、伊藤哲、**山川博美**、**山岸極**、平田令子	現地計測値による樹冠量推定とLiDARデータを用いた樹冠量推定のどちらがスギ幼齢木の成長を説明できるか？	九州森林学会大会発表プログラム、81: 造林I、507	2025.10.
稲葉光飛、伊藤哲、**山川博美**、**山岸極**、平田令子	競合植生が異なる植栽後8年目のスギの枝葉量密度の比較	九州森林学会大会発表プログラム、81: 造林I、506	2025.10.
平田令子、伊藤哲、**山川博美**、**山岸極**	除伐のタイミングにおける異なる下刈りスケジュールの評価	九州森林学会大会発表プログラム、81: 造林I、504	2025.10.
Yuji Kominami、Hisao Sakai、Akiko Hirata、Fumiaki Kitahara、Makoto Ehara、Takuya Morii、Ronald C. Estoque、Shinya Tanaka、Natsuko Yoshifuji、Tomohiro Nishizono、**Taiki Mori**、Michio Oguro、Asuka Koyama、Ikutaro Tsuyama、Eri Takata、Yuji Higuma、Ryoko Ishizaki、Chihiro Kayo	Development of a forest management simulator for estimating forest Net Biome Production (NBP) in Japan(日本の森林における正味生物生産量(NBP)推定のための森林管理シミュレーターの開発)	AsiaFlux Conference 2025、: 92(T1-OS-019)	2025.10.
石原誠	サクラ類増生病に関する研究（Ⅱ） -サクラ類こぶ病の病徴と被害の再評価ー	九州森林学会大会発表プログラム、81: 保護701	2025.10.
勝木俊雄、**金谷整一**	鹿児島地方気象台における‘染井吉野’の1953～2025年の開花異常と将来予測	樹木医学会大会要旨集、30: 41(P-1)	2025.11.
市原優、小笠真由美、**安藤裕萌**	スギ発芽床における種子および芽生えの腐敗の発生	樹木医学会大会要旨集、30: 58(P-18)	2025.11.
安藤裕萌、鈴木浩之、陶山大志、升屋勇人	茨城県つくば市および島根県で得られたスギ赤枯病菌の遺伝子型	樹木医学会大会要旨集、30: O-2	2025.11.
服部友香子、市原優、**安藤裕萌**、升屋勇人	暗色枝枯病に関連するBotryosphaeria科菌4種のスギに対する病原性	樹木医学会大会要旨集、30: O-1	2025.11.
東川航	森林におけるナツアカネ(トンボ科)成虫の季節消長	日本環境動物昆虫学会年次大会要旨集、37: 14(P-13)	2025.11.
Benedictus Reynaldo Hartanto、**Yoshimi Sakai**、Te Ma、Satoru Tsuchikawa、Tetsuya Inagaki	Linking Structural and Chemical Variability to Decomposition Dynamics in Japanese Cedar Using X-ray CT and Hyperspectral Imaging	近赤外フォーラム、41: O-10	2025.11.
石崎涼子、御田成顕、**笹田敬太郎**	現場フォレスターが持つ知識に対する認識の日独比較	2025年度林業経済学会秋季大会要旨	2025.11.
鳥居正人、**安藤裕萌**、**勝木俊雄**、山下香菜、**石原誠**、**酒井佳美**	約70年生メタセコイアの腐朽に関わる木材腐朽菌	樹木医学会大会要旨集、30: P-4	2025.11.
Yukawa Tomohisa、Tsutsumi Chie、Yamashita Yumi、Rammitsu Kento、Yagame Takahiro、**Kinoshita Akihiko**、Ogura-Tsujita Yuki	Orchid conservation in urban ecosystems(都市生態系におけるラン科植物の保全)	International Symposium of Orchid Perspective Research and Industrial Development, Taiwan、: 13	2025.11.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
川上英哲、**金谷整一**、大平慎一、戸田敬	熊本市森林内における桜島由来火山ガスプルームの遠隔検知	IC＆FIA2025（第61回フローインジェクション分析講演会・第39回イオンクロマトグラフィー討論会 合同大会）: O-06S	2025.11.
橋本徹、橋本昌司、阪田匡司、**森大喜**	地掻き処理が土壌CO2とCH4フラックスに与える影響：1年目と2年目の比較	北方森林学会大会研究発表プログラム、74: P-26	2025.11.
Hiroki Momiyama、Tomo'omi Kumagai、Takanori Shimizu、Toshio Abe、Ikuhiro Hosoda、Sho Iwagami、Shin'ichi Iida、**Naoki Kabeya**、Tayoko Kubota、Ushio Kurokawa、Tomoki Oda、Shinji Sawano、Koji Tamai	On the Factors that Determines Buffering Effect of Mountainous Forested Catchments: An Analysis on the Multiple Catchments across Japan	AGU25、H31L	2025.12.
金谷整一、手塚賢至、池亀寛治	絶滅危惧種ヤクタネゴヨウの衰退－30年間のモニタリング結果から－	屋久島学ソサエティ大会プログラム、13: 13	2025.12.
島田和則、岩本宏二郎、大中みちる、長谷川絵里、阿部真、設樂拓人、九島宏道、**勝木俊雄**	放置林における人工ギャップ形成による植物種構成への影響－人工ギャップ形成後10年間の経年変化から	森林立地、67(2): 35-42	2025.12.
高山範理、田中亘、鄭芯蕊、**笹田敬太郎**、都築伸行	林業従事者におけるマニュアル遵守行動の規定因：性格特性と属性・経験等の検討	環境情報科学研究発表大会(2025)、セッション④	2025.12.
金谷整一、**松永道雄**、坂巻祥孝	熊本市におけるキマダラテングイラガの記録	Pulex（九州・沖縄昆虫研究会会報）、104: 1052-1053	2025.12.
金谷整一、山口容子、林　友和、前田三文、久保田修	屋久島におけるヤマグルマについて	屋久島学、12: 124-132.	2025.12.
鈴木圭、**山川博美**、**森大喜**	ツシマヤマネコの分布に対するシカの影響	「野生生物と社会」学会大会講演要旨集、30: 59(P-03)	2025.12.
勝木俊雄	桜こぼれ話(9) シンエイザクラとアカツキザクラ	Makino、133: 6-7	2025.12.
高山範理、田中亘、鄭芯蕊、**笹田敬太郎**、都築伸行	林業従事者におけるマニュアル遵守行動の規定因：性格特性と属性・経験等の検討	環境情報科学学術研究論文集、39(2025): 115-120	2025.12.
森田祐介、島田健一郎、富山雄太、**安田雅俊**、杉浦嘉雄	公開シンポジウム「大分の外来生物問題」	大分自然博物誌、6: 98-101	2025.12.
森田祐介、宮村栄一、**安田雅俊**	大分県別府市における特定外来生物クリハラリスの防除－2025年3月までの状況－	大分自然博物誌、6: 16-20	2025.12.
安田雅俊	高島におけるアシカ科動物の生息記録	大分自然博物誌、6: 90	2025.12.
安田雅俊、森澤猛、三山敏明、横畑泰志	高島で初めて捕獲されたドブネズミ	大分自然博物誌、6: 88-89	2025.12.
安田雅俊	高島のクリハラリスは1955年6月4日に導入された	大分自然博物誌、6: 86-87	2025.12.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
安田雅俊、前田史和	大分県を中心とするオヒキコウモリの生息記録の分布と特徴	大分自然博物誌、6: 76-79	2025.12.
安田雅俊	烏帽子岳・鎧ヶ岳山系における中大型哺乳類	大分自然博物誌、6: 74-75	2025.12.
安田雅俊	英彦山系における江戸期のカモシカの分布	大分自然博物誌、6: 72-73	2025.12.
安田雅俊	16世紀の宣教師アルメイダが書き残した長崎県五島列島のアシカ科動物の記録	長崎県生物学会誌、97: 1-6	2025.12.
石原誠	光はサクラのこぶ病への抵抗を促進する	九州の森と林業、154: 1-4	2025.12.
Hiromi Yamagawa、**Taiki Mori**、**Kei K Suzuki**	Impact of sika deer (Cervus nippon) overpopulation on the distribution of the critically endangered Tsushima leopard cat (Prionailurus bengalensis euptilurus)	Journal for Nature Conservation、89: 127145、https://doi.org/10.1016/j.jnc.2025.127145	2026.01.
Shin'ichi Iida、Eriko Ito、Tanaka Kenzo、**Naoki Kabeya**、Takanori Shimizu、Koji Tamai、**Akira Shimizu**、Yasuhiro Ohnuki、Sophal Chann、Delphis F. Levia	The effect of ENSO on transpiration in a dry evergreen forest in Cambodia: insights from a seven-year sap flow dataset	Agricultural and Forest Meteorology、376: 110894、https://doi.org/10.1016/j.agrformet.2025.110894	2026.01.
勝木俊雄	第1部8章　樹木の寿命	樹木医学講座1－樹木の環境ストレスと保全－(海青社、388頁)、: 107-124	2026.01.
勝木俊雄	編集者まえがき／第2部 植物園・公園の樹木管理／第2部5章 新宿御苑の樹木管理／第3部 サクラの保全と管理／第3部1章 サクラの分類と形態による同定／第3部2章 クマノザクラの保全と適切な利用に関する指針の提案	樹木医学講座3(海青社、392頁)、:3 ／: 178-179／: 221-232／: 254-255／: 256-273／: 274-287	2026.01.
金谷整一	ヤクタネゴヨウのマツ材線虫病対策	樹木医学講座2　樹木の生物被害（海青社、484pp）、: 151-156	2026.01.
安田雅俊、**鈴木圭**、川田伸一郎	森為三が記載したゴリュウモモンガについて	哺乳類科学、66(1): 31-35	2026.01.
安田雅俊	佐賀県西部におけるクリハラリスの生息痕跡の発見と防除の課題	哺乳類科学、66(1): 63-66	2026.01.
安田雅俊	霧島山北麓のクリハラリス個体群について	哺乳類科学、66(1): 57-62	2026.01.
丸田裕介、辻和希、佐藤行人、小林峻、**小高信彦**、鶴井香織	ケナガネズミによるアダン摂食とロードキル発生および餌としてのオカヤドカリの新知見	哺乳類科学、66(1): 45-56	2026.01.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
壁谷大介、宮本和樹、櫃間岳、荒木眞岳、**山川博美**、桑野泰光、鶴崎幸、萩原晟也、小野澤郁佳、楢﨑康二	間伐に伴う樹冠長の変化とそのバリエーションをもたらす要因の評価	日本森林学会誌(Journal of the Japanese Forest Society)、108(1): 1-7、https://doi.org/10.4005/jjfs.108.1	2026.01.
壁谷直記、**清水晃**、一柳錦平、大竹樹生、清水貴範、飯田真一、**酒井佳美**、鳥山淳平、釣田竜也、小林政広	スマートレインサンプラーにより採取した降雨安定同位体比の時間変動に関する研究	水文・水資源学会誌、https://doi.org/10.3178/jjshwr.39.1912	2026.02.
Tomohisa Yukawa、Yumi Yamashita、**Akihiko Kinoshita**	Phylogenetic position and geographical origin of Bulbophyllum boninense (Orchidaceae)、 an oceanic endemic species in the Ogasawara Islands、Japan(小笠原諸島固有種オガサワラシコウラン(ラン科)系統位置と地理的起源)	国立科学博物館研究報告B類(Bulletin of National Museum of Nature and Science Series B)、52(1): 9-15	2026.02.
Suzuki Kei K.、**Yasuda Masatoshi**、Kawada Shin-ichiro	Rediscovery of the type specimen of Jehol flying squirrel (Sciuropterus wulungshanensis Mori, 1939) and its significance for the taxonomy of Pteromys	Acta Theriologica Sinica、46(1): 148-152、https://doi.org/10.16829/j.slxb.151000	2026.02.
Shoma Hiejima、Rico Hachisuka、Isao Akagi、**Yoshimi Sakai**、Taro Yamanobe、Shin Ugawa	Effect of Different Fertilizer Doses Applied in Different Seasons of Cutting Sapling Production on Nutrient Accumulation and Outplanting Performance of Cryptomeria japonica D. Don Cutting Saplings	Forest Science、https://doi.org/10.1007/s44391-026-00060-0	2026.02.
Noritaka Nakamura、**Akihiko Kinoshita**、Yuki Kitade、Muneyoshi Yamaguchi、Takashi Yamanaka	Origin of the paternal gametes of Japanese whitish truffle (Tuber japonicum) in the second year of truffle production at a konara oak (Quercus serrata) plantation in Kyoto Prefecture、Japan	Mycoscience、https://doi.org/10.47371/mycosci.2025.12.005	2026.02.
野宮治人、**山川博美**、**山岸極**	人工林伐採後の未植栽地に成立する二次林の特徴：シカの少ない九州の事例	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
高橋與明、田中真哉、髙橋正義、齋藤英樹、西園朋広、山田祐亮、鈴木秀典、**福本桂子**、鷹尾元	航空機LiDARデータによる市町村レベルの人工林管理状況の把握	日本森林学会大会、137:ページ未定、PR0402	2026.03.
石塚成宏、今矢明宏、**酒井佳美**、山下尚之	可視・近赤外分光分析によってanidic soil propertyは検出は可能か？	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
酒井寿夫、平田晶子、**森大喜**、北原文章、森井拓哉、江原誠、小南裕志	森林管理シミュレーターを用いた森林生態系における材収支の評価(Evaluation of Wood Carbon Budgets in Forest Ecosystems using a Forest Management Simulator)	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
久保田多余子、**壁谷直記**、小田智基、岩上翔	常陸太田試験地におけるスギ・ヒノキの樹液と枝の水の安定同位体比の違い	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
吉田智佳史、山田健	ヤナギ超短伐期施業に向けた効率的な穂木加工方法の検討	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
東川航	里山に生息する赤トンボ数種の季節的な食性変化の推定	日本生態学会大会、73:ページ未定	2026.03.
武山智博、岩見恭子、富田直樹、兵藤不二夫、水田拓、関伸一、**小高信彦**	羽標本の安定同位体分析から探る沖縄島の鳥類の食性	日本生態学会大会、73:ページ未定	2026.03.
八木貴信、重永英年、**山川博美**	苗高、幹形状比、根詰まり度の異なるスギのコンテナ苗の植栽後の活着と成長	日本森林学会大会、137:PE-63	2026.03.
鳥居正人、**安藤裕萌**、市原優、矢田豊	石川県におけるスギ辺材腐朽被害の一事例－傷に由来する腐朽とその要因－	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
飯田真一、清水貴範、**壁谷直記**、玉井幸治、**清水晃**、荒木誠、大貫靖浩、鳥山淳平、伊藤江利子、久保田多余子、田中憲蔵、山中勤、SophalChann、DelphisFLevia	ENSOによる雨量変動に着目したカンボジア乾燥落葉林の蒸散量の長期的傾向	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
一瀬優輝、林耕太、柴田尚、**木下晃彦**、中村慎崇	トリュフ感染苗木植栽地におけるトリュフ菌感染率及び交配型の分布について	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
松村香音、**木下晃彦**、金野尚武、鈴木智大、小野晶子	帯線部RNA-Seq解析が明らかにしたシイタケのLcc依存的トリコデルマ防御機構	日本農芸化学会、ページ未定	2026.03.
市原優、**安藤裕萌**、服部友香子、升屋勇人	スギとヒノキの苗立枯病から分離されたFusarium属菌の病原性	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
吉田祐樹、福永莉彩、松永直輝、**金谷整一**、澤進一郎	立田山ヤエクチナシの八重咲き変異候補の遺伝解析	日本植物分類学会、25:ページ未定	2026.03.
金谷整一、**近藤洋史**、作田耕太郎、**勝木俊雄**	紫尾山におけるブナの分布状況と保護林拡大の提案	日本森林学会大会学術講演集、137:ページ未定	2026.03.
金谷整一、**松永道雄**、**清水俊之**、**青木翔**、**山川博美**、**山本泰代**、**飯田啓達**、**佐山勝彦**	2025年秋季の熊本市におけるキオビエダシャクの確認	九州森林研究、79:133-134	2026.03.
才木真太朗、イレクアナ、**安藤裕萌**、佐橋憲生、南光一樹	病原菌による葉面の濡れ性の変化：うどんこ病菌Erysiphe castaneigenaの事例	日本生態学会大会、73:ページ未定	2026.03.
川西あゆみ、**酒井佳美**、石塚成宏、相澤州平、鳥山淳平、今矢明宏	日本全国の森林における根株形状および分解度分布と気候・地形条件との関連	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
勝木俊雄、**山川博美**、佐藤健誠、大工龍也	広葉樹林化を目的としたUAV播種用の種子ペレットの開発	日本森林学会大会講演要旨集、137: 233(PE-32)	2026.03.
勝木俊雄	熊本市におけるサクラの伝統的栽培品種の保存の可能性	日本植物分類学会、25:ページ未定	2026.03.
鷹尾元、岡田康彦、**髙橋與明**、壁谷大介、村上亘、鈴木覚、髙橋正義、齋藤英樹、宮本和樹、櫃間岳、宇都木景子、小野澤郁佳、桑野泰光	管理優先度の高い森林の抽出と管理技術－市町村の判断を支える基盤として－(Supporting municipalities' decision to prioritize and select management interference to private plantations)	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
小坂肇、**佐山勝彦**、神崎菜摘、牧野俊一	スズメバチ女王に寄生する寄生バチの局所的な寄生率の比較	日本応用動物昆虫学会大会講演要旨集、70:116	2026.03.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
酒井佳美、堀沢栄、徳地直子、鵜川信、上村真由子、稲垣哲也	スギの根と枝の分解に伴う重量減少と影響要因の検討	日本木材学会大会、76:ページ未定	2026.03.
伊藤哲、**山岸極**、**山川博美**、平田令子、赤池友樹	除伐による被陰解除後のスギの成長回復にはどのくらいの樹冠量が必要か？	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
山岸極、伊藤哲、**山川博美**、平田令子	スギ植栽木の樹冠量を考慮した幹成長モデルによる被圧の累積効果の定量評価(Quantifying cumulative shading effects using a crown-based stem growth model for planted sugi trees)	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
越地森羅、伊藤哲、**山川博美**、平田令子、野村日向	九州山地のモミ・ツガ・広葉樹混交林における33年間の動態	日本森林学会大会、137:ページ未定(PW-23)	2026.03.
赤池友樹、伊藤哲、**山川博美**、**山岸極**、平田令子、林田綾音	下層広葉樹の結実と鳥類相から評価した小面積皆伐異齢人工林の林縁効果	日本森林学会大会、137:ページ未定(PT1-1)	2026.03.
山川博美、伊藤哲、**山岸極**、平田令子	除伐後の成長回復が見込めなくなる下刈り省略スケジュール	日本森林学会大会、137:ページ未定(PE-55)	2026.03.
小野賢二、PoungparnSasitorn、平田泰雅、**森大喜**、藤田早紀	タイ王国マングローブ林から採取したマングローブ細根の仮比重・真比重(Bulk density and specific gravity of mangrove fine roots collected from mangrove forests in Thailand)	日本森林学会大会、137:ページ未定(PT5-4)	2026.03.
神原広平、**酒井佳美**、杉山正明、鈴木諒平、髙倉武	家庭用シロアリベイト材の施用効果に関する研究	日本木材学会大会、76:ページ未定	2026.03.
安田雅俊	九州のクリハラリス(タイワンリス)	九州の森と林業、155: 1-3	2026.03.
小南裕志、平田晶子、酒井寿夫、北原文章、江原誠、森井拓哉、Ronald C.Estoque、田中真哉、吉藤奈津子、西園朋広、**森大喜**、小黒芳生、小山明日香、津山幾太郎、高田依里、樋熊雄宇至、石崎涼子、加用千裕	高分解能炭素シミュレータを用いた日本の森林のNBP推定の試み	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
壁谷直記、一柳錦平、RAHMAWANIrfanTsany、長岡輝、**清水晃**、清水貴範、飯田真一	江津湖周辺の湧水や河川水の平均通過時間の推定－d値の季節変動を用いた研究事例－	九州森林研究、79: 87-91	2026.03.
山下由美子、松久保康輔、大谷美穂、的場彬通、**勝木俊雄**	和歌山県下から収集・増殖したクマノザクラの開花特	日本森林学会大会講演要旨集、137: 250(PF-35)	2026.03.
Jumpei Toriyama、**Yoshimi Sakai**、**Masahiro Inagaki**、Kyotaro Noguchi、Akihiro Imaya	Root intersection densities in Japanese forests: Insights from a nationwide soil profile survey	Forest Ecology and Management、in press https://doi.org/10.1016/j.foreco.2026.123535	2026.03.
山口宗義、中村慎崇、北出雄生、**木下晃彦**、山中高史	土壌DNAを指標にした日本産白トリュフTuber japonicum定量方法の確立	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
勝木俊雄、**山川博美**、佐藤健誠	宮崎県西臼杵地域における実生苗植栽試験によるシカ嗜好性の検証	九州森林研究、79: 71-74	2026.03.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
平田令子、伊藤哲、**山川博美**、**山岸極**	下刈り省略により生じる植栽木の形質バラツキとその発生時期	日本森林学会大会、137:ページ未定(PE-52)	2026.03.
稲葉光飛、伊藤哲、**山川博美**、**山岸極**、平田令子	単位樹冠体積当たりの枝葉量(枝葉量密度)がスギ幼齢木の成長に及ぼす影響	日本森林学会大会、137:ページ未定(PE-10)	2026.03.
髙橋與明	T-1. 航空レーザ計測(ALS)による人工林の管理状態マップ	管理優先度の高い民有人工林の抽出と管理のための手引書: 16-18	2026.03.
髙橋與明	T-2. 管理状態マップから管理不足の恐れのある森林を抽出する	管理優先度の高い民有人工林の抽出と管理のための手引書: 19-21	2026.03.
八木貴信	M-5. 風雪害リスクを考慮した間伐技術としての将来木施業	管理優先度の高い民有人工林の抽出と管理のための手引書: 46	2026.03.
八木貴信	M-7. 斜面崩壊リスク軽減に天然植生を活用する新しい再造林技術	管理優先度の高い民有人工林の抽出と管理のための手引書: 48	2026.03.
山川博美	M-10. 広葉樹林化：主伐後に広葉樹の森を作る	管理優先度の高い民有人工林の抽出と管理のための手引書: 51	2026.03.
鷹尾元、**髙橋與明**、村上亘、小野澤郁佳	仕様書例(経営管理が行われていない人工林、斜面崩壊危険度)	管理優先度の高い民有人工林の抽出と管理のための手引書: 54-58	2026.03.
鳥山淳平、**酒井佳美**、**稲垣昌宏**、**森大喜**、児嶋美穂、横尾謙一郎	センダン若齢林における地上部の元素濃度と蓄積量の推定	九州森林研究、79: 121-124	2026.03.
安田雅俊、長峰智、**東川航**	熊本県南部の低地河川におけるカワネズミ(真無盲腸目トガリネズミ科)の生息と意義	熊本野生生物研究会誌、13: 67-71	2026.03.
安田雅俊	シカとカモシカの現状	熊本野生生物研究会誌、13: 23-25	2026.03.
安田雅俊、川田伸一郎	くまもとの哺乳類・補遺(1)	熊本野生生物研究会誌、13: 81-83	2026.03.
安田雅俊、前田哲弥	1920年代の新聞広告からみた熊本県南部における民間薬としてのカワウソ類の利用	熊本野生生物研究会誌、13: 43-47	2026.03.
前田史和、**安田雅俊**	プラスチック製箱ワナの潜在能力とその活用に向けた改良–シャーマントラップの代替として–	熊本野生生物研究会誌、13: 77-80	2026.03.
藤野正也、林宇一、**笹田敬太郎**	農林業センサスにみる林業作業受託・立木買い経営体の時系列分析	日本森林学会大会講演要旨集、137: 131(A-8)	2026.03.
籾山寛樹、熊谷朝臣、清水貴範、阿部俊夫、細田育広、岩上翔、飯田真一、**壁谷直記**、久保田多余子、**黒川潮**、小田智基、澤野真治、玉井幸治	山地森林流域の流出平準化機能を決める要因の推定	日本森林学会大会、137:ページ未定	2026.03.
石崎涼子、御田成顕、**笹田敬太郎**	日本における現場フォレスターの認識	第137回日本森林学会：ページ未定	2026.03.

(*)令和7年版年報に未収録の分を追加記載しています。

著者（発表者）	成果発表のタイトル等	誌名、巻号頁	発行年月
笹田敬太郎	台湾における現場フォレスターの認識	第137回日本森林学会：ページ未定	2026.03.
森井拓哉、**笹田敬太郎**、御田成顕	木材需給のミスマッチによる経済損失と木材加工業の役割－鹿児島県における聞き取り調査と産業連関分析から－	日本木材学会大会、76: ページ未定	2026.03.
黒川潮、岡田康彦	伐採跡地に侵入するアカメガシワ根系による引き抜き抵抗力の評価	九州森林研究、79: 81-85	2026.03.

受託出張

用務	依頼者	担当者　所属　氏名	用務地	出張期間
種苗法に基づく出願品種の現地調査	農林水産省輸出・国際局	支所長 勝木俊雄	岐阜県 中津川市	2025.04.10～04.11
宮崎森林管理署管内：「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」の照葉樹林復元を目的としたシカ被害対策実施エリアにおける現地調査等への出席 助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 山川博美	宮崎県 綾町	2025.04.15~04.16
九州バイオリサーチネットBIO九州編集委員	九州バイオリサーチネット	森林微生物研究グループ長 木下晃彦	オンライン	2025.04.17
樹木医研修受講者選抜試験委員会の委員（委員会への出席）	一般財団法人 日本緑化センター	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.04.18
令和7年度大分県クリハラリス防除講習会の講師	大分県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	大分県 大分市	2025.04.25
開聞岳国有林において林地の崩壊が発生した箇所の実態把握及び治山対策検討にかかる現地調査	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	鹿児島県 指宿市	2025.05.12~05.13
樹木医学会107回編集会議出席	樹木医学会	支所長 勝木俊雄 森林生態系研究グループ 金谷整一	オンライン	2025.05.13
農林水産大臣が行う令和7年度林業普及指導員資格試験の筆記試験及び口述試験の実施等に関すること	林野庁	産学官民連携推進調整監 吉田智佳史	オンライン	2025.05.15
森町オニウシ公園の品種桜及び固有種桜の観察、調査 地元観光ガイドの会ほかに向けた桜講演会の講師	グリーンコンサルタント 緑の総合研究所	支所長 勝木俊雄	北海道 茅部郡森町	2025.05.15~05.17
2025年度共同利用事業（共同研究a、助成番号2025jurc-cer01）に係る安定同位体分析作業	京都大学生態学研究センター	森林動物研究グループ 東川航	滋賀県 大津市	2025.05.22~05.30
令和7年度「緑の雇用」担い手確保支援事業の評価等に関する調査の検討委員会への出席	一般財団法人 林業経済研究所	森林資源管理研究グループ 笹田敬太郎	オンライン	2025.05.23
令和7年度（2025年度）宇土半島におけるタイワンリス防除等連絡協議会出席	熊本県県央広域本部宇城地域振興局	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本県 宇城市	2025.05.28
令和7年度樹木医研修受講者選抜試験委員会（第2回）出席	一般財団法人 日本緑化センター	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.05.30
産業保健研修会に係る講師	独立行政法人労働者健康安全機構石川産業保健総合支援センター	チーム長（生物多様性担当） 佐山勝彦	石川県 金沢市	2025.06.11
森林技術総合センターが開催する「研究開発推進委員会」（年1回開催）での指導、助言	鹿児島県森林技術総合センター	産学官民連携推進調整監 吉田智佳史	オンライン	2025.06.16
九州バイオリサーチネット役員	九州バイオリサーチネット	支所長 勝木俊雄	熊本市	2025.06.25
リュウキュウヤマガメの域外・域内保全についての現地調査	千葉県	森林動物研究グループ 小高信彦	沖縄県 沖縄島	2025.07.02~07.09
樹木医学会第2回理事会出席	樹木医学会	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.07.03
令和8年度試験研究課題検討会と令和6年度試験研究結果検討会の開催に係る試験研究アドバイザー	大分県	森林生態系研究グループ 山岸極	大分県 日田市	2025.07.04
令和7年度第1回事例集等改訂委員会出席	一般社団法人 日本樹木医会	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.07.08
令和7年度第1回持続可能な森林造成支援システムの構築事業検討委員会の出席	森林資源研究センター	チーム長（土壌環境評価担当） 稲垣昌宏	沖縄県 名護市	2025.07.14

用務	依頼者	担当者　所属　氏名	用務地	出張期間
「令和7年度造林作業の機械化に向けた施業体系の検討に関する調査委託事業」第1回検討委員会への出席	一般社団法人 日本森林技術協会	森林生態系研究グループ 山川博美	オンライン	2025.07.22
熊本市健全な森づくり推進協議会委員	熊本市	支所長 勝木俊雄	熊本市	2025.07.24
令和7年度九州森林管理局事業評価技術検討会（完了後の評価）出席	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	熊本市	2025.07.28
熊本県林業研究・研修センターの令和7年度研究課題選定・評価等外部評価委員会議への出席	熊本県林業研究・研修センター	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2025.07.30
宮崎県環境森林部試験研究等連絡調整会議外部評価委員会出席	宮崎県	地域研究監 酒井佳美	宮崎県 東臼杵郡美郷町	2025.08.01
令和7年度樹木医研修受講者選抜試験委員会（第3回）出席	一般財団法人 日本緑化センター	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.08.15
森林環境保全直接支援事業工程分析調査事業検討委員会第1回委員会への出席	株式会社山地防災研究所	産学官民連携推進調整監 吉田智佳史	オンライン	2025.08.18
林野庁委託「令和7年度省力・低コスト造林及び森林整備事業のデジタル申請・検査等の普及調査委託事業」に係るシンポジウムでの講演	一般社団法人 日本森林技術協会	森林生態系研究グループ 山川博美	東京都 千代田区	2025.08.25
地域森づくり構想技術者育成研修（九州ブロック）事前打合せ	林野庁	森林生態系研究グループ 山川博美	熊本県 人吉市	2025.08.28~08.29
樹木医学会108回編集会議出席	樹木医学会	支所長 勝木俊雄 森林生態系研究グループ 金谷整一	オンライン	2025.09.02
樹木医学会表彰委員会出席	樹木医学会	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.09.10
令和7年度（2025年）第1回熊本県環境影響評価審査会第一部会の開催及び現地視察の実施（現地視察）	熊本県	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2025.09.19
クリハラリス生息状況調査及びクリハラリス防除実施計画に係る助言	大分県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	大分県 大分市	2025.09.19
リュウキュウヤマガメの域外・域内保全についての現地調査	千葉県	森林動物研究グループ 小高信彦	沖縄県 沖縄島	2025.09.20~09.24
令和7年度樹木医研修における「Web交流会（１期）」への出席（樹木医研修講師として）	一般財団法人 日本緑化センター	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.09.24
樹木医学会第3回理事会出席	樹木医学会	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.09.25
樹木医学会第1回理事会出席	樹木医学会	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.09.25
令和7年度（2025年）第1回熊本県環境影響評価審査会第一部会の開催及び現地視察の実施（審査会）	熊本県	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2025.09.29
「農林業センサスを用いた林家・林業経営体の動向分析」に関するセミナーへの出席	農林水産省農林水産政策研究所	森林資源管理研究グループ 笹田敬太郎	東京都 千代田区	2025.10.02
令和7年度樹木医研修における「Web交流会（２期）」への出席（樹木医研修講師として）	一般財団法人 日本緑化センター	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.10.08
大分森林管理署管内：「多様な森林づくり（見える化）プロジェクト」に係る面的複層林施業試行地での現地調査等への出席助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 山川博美	大分県 豊後大野市	2025.10.08~10.9

用務	依頼者	担当者　所属　氏名	用務地	出張期間
熊本減災フォーラムにおける講師 「森林の斜面崩壊防止機能について」	熊本大学	山地防災研究グループ長 黒川潮	熊本市	2025.10.09
佐賀県林業試験場研究評価会議評価員	佐賀県	産学官民連携推進調整監 吉田智佳史	佐賀県 佐賀市	2025.10.16
令和7年度保護林管理委員会における紫尾山現地検討会への出席助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 金谷整一	鹿児島県 薩摩郡 さつま町	2025.10.16
令和7年度第1回九州森林管理局保護林管理委員会出席	九州森林管理局	支所長 勝木俊雄 森林生態系研究グループ 山川博美	鹿児島県 薩摩川内市	2025.10.16～10.17
宮崎森林管理署管内：「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」の照葉樹林復元を目的としたシカ被害対策実施エリアにおける現地調査等への出席 助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 山川博美	宮崎県 綾町	2025.10.21~10.22
第3回 熊本市健全な森づくり推進協議会への出席	熊本市	支所長 勝木俊雄	熊本市	2025.10.22
浜松市クリハラリス対策協議会への出席	浜松市	森林動物研究グループ長 安田雅俊	オンライン	2025.10.24
令和7年度「緑の雇用」担い手確保支援事業の評価等に関する現地調査への出席	一般財団法人 林業経済研究所	森林資源管理研究グループ 笹田敬太郎	山口県内	2025.10.27~10.29
鳥取県山林樹苗協同組合が主催する令和7年度鳥取県山林樹苗生産研修会における「スギ赤枯病の基礎知識と対策」の講師	鳥取県山林樹苗協同組合	森林微生物管理研究グループ 安藤裕萌	鳥取県 東伯郡琴浦町	2025.10.29
令和7年度第2回事例集等改訂委員会出席	一般社団法人 日本樹木医会	支所長 勝木俊雄	オンライン	2025.10.29
トリュフ菌定着についての現地調査	三菱マテリアル株式会社	森林微生物研究グループ長 木下晃彦	北海道 安平町・森町	2025.10.29～10.30
森林環境保全直接支援事業工程分析調査事業検討委員会第２回委員会（現地検討会）への出席	株式会社山地防災研究所	産学官民連携推進調整監 吉田智佳史	宮崎県 宮崎市・都城市	2025.10.30~10.31
令和７年度治山・林道工事コンクール最終審査委員会への出席	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	熊本市	2025.11.04
令和7年度生物多様性保全研修における講師	林野庁森林技術総合研修所	森林生態系研究グループ 山川博美	東京都 八王子市	2025.11.12~11.14
地域森づくり構想技術者育成研修（九州ブロック）研修講師	林野庁	森林生態系研究グループ 山川博美	熊本県 人吉市	2025.11.18~11.19
令和7年度（2025年度）宇土半島におけるタイワンリス防除等連絡協議会捕獲対策実施に係る打ち合わせ会出席	熊本県県央広域本部宇城地域振興局	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本県 宇城市	2025.11.19
熊本県森林審議会委員	熊本県	支所長 勝木俊雄	熊本市	2025.11.25
令和7年度緑の雇用担い手確保支援事業の現場管理責任者（フォレストリーダー）集合研修（12月）の講師	公益財団法人熊本県林業従事者育成基金（熊本県林業労働力確保支援センター）	森林生態系研究グループ 山川博美	熊本市	2025.12.01
「古座川町桜を活かした町づくり推進会議」の委員として委員会出席	和歌山県古座川町	支所長 勝木俊雄	和歌山県 東牟婁郡 古座川町	2025.12.02
長崎県平戸市主師町白石地区の地すべり対策に係る設計方針等検討会への出席	長崎県	山地防災研究グループ長 黒川潮	長崎県 佐世保市	2025.12.02

用務	依頼者	担当者　所属　氏名	用務地	出張期間
令和7年度九州森林管理局技術開発委員会出席	九州森林管理局	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2025.12.08
令和7年度（2025年）第2回熊本県環境影響評価審査会第一部会の開催及び現地視察の実施（現地視察）	熊本県	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2025.12.15
「令和7年度造林作業の機械化に向けた施業体系の検討に関する調査委託事業」第2回検討委員会への出席	一般社団法人 日本森林技術協会	森林生態系研究グループ 山川博美	オンライン	2025.12.18
「令和7年度沖縄きのこ市場競争力強化事業」第1回検討委員会への出席	沖縄県	森林微生物研究グループ長 木下晃彦	沖縄県 那覇市	2025.12.25
令和7年度（2025年）第2回熊本県環境影響評価審査会第一部会の開催及び現地視察の実施（審査会）	熊本県	地域研究監 酒井佳美	熊本市	2026.01.07
令和７年度きのこグループ試験研究アドバイザー会議及びきのこグループ研究発表会での講演	大分県農林水産研究指導センター	森林微生物研究グループ長 木下晃彦	大分県 豊後大野市	2026.01.19～01.20
動植物園から始まる、持続可能な地域づくり～自然と人が共に豊かになるしくみを考える～トランジションデザインワークショップの開催に伴う事前インタビューおよび参加・助言	熊本市	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本市	2026.01.26
樹木医学会第1回理事会出席	樹木医学会	支所長 勝木俊雄	オンライン	2026.01.28
森林整備センター令和7年度第3回情報交換会における講演　外	森林整備センター	森林資源管理研究グループ 笹田敬太郎	川崎市	2026.01.29
令和7年度第3回事例集等改訂委員会出席	一般社団法人 日本樹木医会	支所長 勝木俊雄	オンライン	2026.02.03
「令和7年度造林作業の機械化に向けた施業体系の検討に関する調査委託事業」第3回検討委員会への出席	一般社団法人 日本森林技術協会	森林生態系研究グループ 山川博美	オンライン	2026.02.12
おおいた林業アカデミーシラバス等の評価	大分県	支所長 勝木俊雄	大分県 大分市	2026.02.13
令和7年度第2回九州森林管理局保護林管理委員会出席	九州森林管理局	支所長 勝木俊雄 森林生態系研究グループ 山川博美	宮崎県 都城市	2026.02.16
令和7年度九州中南部エリア・アライグマ広域防除戦略会議への出席	九州地方環境事務所	森林動物研究グループ長 安田雅俊	熊本市	2026.02.16
宮崎森林管理署管内：「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」の照葉樹林復元を目的としたシカ被害対策実施エリアにおける試行的な取組（植生調査等）への出席 助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 山川博美	宮崎県 綾町	2026.02.17
森林環境保全直接支援事業工程分析調査事業検討委員会第3回委員会への出席	株式会社山地防災研究所	産学官民連携推進調整監 吉田智佳史	オンライン	2026.02.18
外来種被害防止行動計画付属資料に関するヒアリング	環境省自然環境局 野生生物課	森林動物研究グループ長 安田雅俊	オンライン	2026.02.20
企画展「サクラ×さくら」関連講演会の講師	静岡県	支所長 勝木俊雄	静岡市	2026.02.21
令和7年度ノグチゲラ保護増殖事業ワーキンググループ会合への参加	一般財団法人 沖縄県環境科学センター	森林動物研究グループ 小高信彦	沖縄県 浦添市	2026.02.25
令和7年度第2回クリハラリス防除担当者会議への出席	大分県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	大分県 大分市	2026.02.25

用務	依頼者	担当者　所属　氏名	用務地	出張期間
令和7年度九州森林管理局事業評価技術検討会（令和8年度新規採択事業に係る事前評価）への出席	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	熊本市	2026.02.26
宮崎森林管理署管内：「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」の照葉樹林復元を目的としたシカ被害対策実施エリアにおける試行的な取組（植生調査等）への出席 助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 山川博美	宮崎県 綾町	2026.02.27
令和7年度地域管理経営計画等の策定及び変更に係る有識者懇談会への出席	九州森林管理局	支所長 勝木俊雄	熊本市	2026.03.02
樹木医学会110回編集会議出席	樹木医学会	支所長 勝木俊雄 森林生態系研究グループ 金谷整一	オンライン	2026.03.02
宮崎南部森林管理署管内の白木俣林道の路体や法面等に複数の亀裂が発生している箇所の実態把握及び林道施設復旧対策の検討にかかる現地調査	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	宮崎県 日南市	2026.03.05~03.06
綾ユネスコエコパーク専門委員会への出席	綾町	森林生態系研究グループ 山川博美	オンライン	2026.03.10
朝倉地区民有林直轄治山事業全体計画調査業務に伴う調査結果を踏まえた現地状況確認	九州森林管理局	山地防災研究グループ長 黒川潮	福岡県 朝倉市	2026.03.11
宮崎森林管理署管内：「綾川流域照葉樹林帯保護・復元計画」の照葉樹林復元を目的としたシカ被害対策実施エリアにおける試行的な取組（植生調査等）への出席 助言等	九州森林管理局	森林生態系研究グループ 山川博美	宮崎県 綾町	2026.03.11~03.12
令和7年度第1回持続可能な森林造成支援システムの構築事業検討委員会の出席	森林資源研究センター	チーム長（土壌環境評価担当） 稲垣昌宏	オンライン	2026.03.12
「令和7年度沖縄きのこ市場競争力強化事業」第2回検討委員会への出席	沖縄県	森林微生物研究グループ長 木下晃彦	沖縄県 那覇市	2026.03.13
浜松市クリハラリス対策協議会第12回会議出席	浜松市	森林動物研究グループ長 安田雅俊	オンライン	2026.03.23
森林立地学会理事会への出席	森林立地学会	地域研究監 酒井佳美	オンライン	2026.03.25
大分県カモシカ保護管理事業推進協議会委員	大分県	森林動物研究グループ長 安田雅俊	大分県 大分市	2026.03.26

受託研修受入

研修内容	受講者　所属　氏名	期　間	研修指導者
トリュフの遺伝解析のためのDNA 抽出、PCR、SSR マーカーによるジェノタイピング	山梨県森林総合研究所 生産科 一瀬優輝	2025.09.16～ 2025.10.16	森林微生物管理研究グループ 木下晃彦 中村慎崇
シイタケの育種およびトリュフの栽培に関するDNA解析技術研修	大分県農林水産研究指導センター林業研究部きのこグループ 松本滉平	2026.01.26～ 2026.02.06	森林微生物管理研究グループ 木下晃彦

海外派遣・出張

所　属　　氏　名	用　務(行き先)	期　間	経費負担
森林生態系研究グループ 森　大喜	科学研究費補助金「酵素反応を考慮した土壌炭素分解モデル構築に向けて～酸化酵素活性の制御要因の探索～」による情報収集 （フランス）	2025.4.6～ 2025.4.12	科学研究費補助金
森林微生物管理研究グループ 安藤　裕萌	JST／JICA地球規模課題対応国際技術協力課題「マレーシア国サラワク州の国立公園における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発」の一環として、プロジェクト年次ワークショップへの参加およびサラワク州内の国立公園における菌類の生物多様性調査およびサンプル処理 （マレーシア）	2025.5.15～ 2025.5.28	国立大学法人京都大学大学院（受託出張）
支所長 勝木　俊雄	韓国山地保全協会の要請による「第11回世界植物園教育総会国際シンポジウム」出席・発表 （大韓民国）	2025.6.9～ 2025.6.11	韓国山地保全協会（受託出張）
森林動物研究グループ 安田　雅俊	東京都立大学の要請による熱帯雨林の生物多様性調査（バーチャルハンティング現地試験およびソーシャルプログラム）に対する助言 （マレーシア）	2025.8.10～ 2025.8.17	東京都公立大学法人東京都立大学（受託出張）
森林微生物管理研究グループ 安藤　裕萌	JST／JICA地球規模課題対応国際技術協力課題「マレーシア国サラワク州の国立公園における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発」（SATREPS-PUBS）の一環として、サラワク州内の国立公園における菌類の生物多様性調査およびサンプル処理 （マレーシア）	2025.8.24～ 2025.8.30	国立大学法人京都大学大学院（受託出張）
森林生態系研究グループ 森　大喜	環境研究総合推進費「広域に拡大する熱帯林伐採が引き起こす森林から劣化植生へのレジームシフト：データ駆動型モデルを活用した温暖化緩和機能の総合評価」達成のための測定手法の検討 （マレーシア）	2025.9.17～ 2025.9.19	政府等受託事業（環境省・環境研究総合推進費）
森林生態系研究グループ 森　大喜	環境研究総合推進費「広域に拡大する熱帯林伐採が引き起こす森林から劣化植生へのレジームシフト：データ駆動型モデルを活用した温暖化緩和機能の総合評価」達成のための試験地設計およびガスサンプリング （マレーシア）	2025.9.30～ 2025.10.12	政府等受託事業（環境省・環境研究総合推進費）
森林生態系研究グループ 森　大喜	林野庁事業「グローバルサウス諸国における森林を活用した防災・減災技術展開促進事業」課題におけるカウンターパートとの研究打合せおよび現地調査 （タイ）	2025.11.28～ 2025.12.2	林野庁補助事業
山地防災研究グループ 壁谷　直記	科学研究費補助金「大気中のCO2濃度の上昇は森林からの蒸散量を増やすのか減らすのか？」研究推進のための現地調査、カウンターパートとの打合せ （カンボジア）	2025.12.12～ 2025.12.23	科学研究費補助金
森林微生物管理研究グループ 安藤　裕萌	JST／JICA地球規模課題対応国際技術協力課題「マレーシア国サラワク州の国立公園における熱帯雨林の生物多様性活用システムの開発」（SATREPS-PUBS）の一環として、サラワク州内の国立公園における菌類の生物多様性調査および資料解析 （マレーシア）	2025.12.13～ 2025.12.20	国立大学法人京都大学大学院（受託出張）

諸会議

会　　議　　名	開催日	主　催	開催場所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（保護部会）	2025.5.20～2025.5.21	九州林試協	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（育林・経営部会）	2025.5.21～2025.5.22	九州林試協	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（育種部会）	2025.5.22～2025.5.23	九州林試協	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会育種部会次世代育種戦略分科会（第１回）	2025.5.23	九州林試協育種部会	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（特産部会）	2025.5.22～2025.5.23	九州林試協	九州支所
九州地区林業試験研究機関連絡協議会研究担当者会議（木材加工部会）	2025.5.27～2025.5.28	九州林試協	大分県農林水産研究指導センター林業研究部（大分県日田市）
環境省環境研究総合推進費（革新型研究開発）「劣化植生」キックオフ会合	2025.5.30	九州支所	京都大学農学部（京都府京都市）
九州地区林業試験研究機関連絡協議会場所長会議	2025.7.27～2025.7.28	九州林試協	大分県農林水産研究指導センター林業研究部（大分県日田市）
九州林政連絡協議会（第110回）	2025.8.26～2025.8.27	九州森林管理局	別府商工会議所（大分県別府市）ほか
森林研究・技術開発推進九州ブロック会議（全体会議、研究分科会）	2025.10.21	林野庁 森林総合研究所	九州森林管理局（熊本県熊本市）
九州地区林業試験研究機関連絡協議会育種部会次世代育種戦略分科会（第２回）	2025.10.22	九州林試協育種部会	九州森林管理局（熊本県熊本市）
九州地区林業試験研究機関連絡協議会育林・経営部会人工林管理分科会	2025.10.29～2025.10.30	九州林試協育林・経営部会	大分県農林水産研究指導センター林業研究部（大分県日田市）ほか
九州地区林業試験研究機関連絡協議会特産部会シイタケ分科会	2025.11.5～2025.11.6	九州林試協特産部会	大分県農林水産研究指導センター林業研究部（大分県日田市）ほか
環境省環境研究総合推進費（革新型研究開発）「劣化植生」アドバイザリーボード会合	2025.11.18	九州支所	京都大学農学部（京都府京都市）
九州地区林業試験研究機関連絡協議会保護部会研修会	2025.11.25～2025.11.26	九州林試協保護部会	唐津総合庁舎（佐賀県唐津市）ほか
九州支所業務報告会	2025.12.5	九州支所	九州支所
九州地域評議会	2026.2.2	九州支所	九州支所
交付金プロジェクト「人工林伐採跡」事後評価会議	2026.1.15	九州支所	九州支所

当所職員研修

研　　修　　名	受講者　所属　氏名	期　間	実 施 機 関
防火管理者講習	山本　泰代	2025.06.19～ 2025.06.20	熊本市防災協会
安全運転管理者講習	山本　泰代	2025.07.15～ 2025.07.15	熊本県公安委員会
令和７年度全職種管理者研修	山本　泰代	2025.06.23～ 2025.06.23	農研機構
令和７年度主査等Ｉ研修	飯田　啓達	2025.11.10～ 2025.11.11	農研機構
入札談合等関与行為防止法等に関する研修会	飯田　啓達	2026.03.05～ 2026.03.06	公正取引委員会事務総局九州事務所
入札談合等関与行為防止法等に関する研修会	園田　藍	2026.03.05～ 2026.03.06	公正取引委員会事務総局九州事務所
令和7年度図書館等職員著作権実務講習会	中川　琴葉	2025.11.13～ 2025.11.14	文化庁

図書刊行物の収書数と蔵書数

（単位：冊）

区分	単行書		逐次刊行書		その他資料
	和書	洋書	和書	洋書	
7年度　収書数	136	11	189（種）	5（種）	4
7年度　蔵書数	11,723	1,949	9,351	3,654	9,408

支所視察見学者

（2025年4月1日～2026年3月31日）

国	37 名	国外	0 名
都道府県	0 名		
林業団体	0 名		
一般	118 名		
学校関係	147 名		
国内合計	302 名	総合計	302 名

2024(令和6)年4月から森の展示館は平日のみ開館

森林教室 「立田山森のセミナー」

○第８０回

開催日： 令和７年９月２７日（土）
テーマ： 森林の気候緩和機能ってなに？
参加者： ６名
講　師： 山地防災研究グループ
概　要： 屋外で測定器械を使って気温や日射などの気象値を測り、森林の公益的機能の一つである気候緩和機能について学びました。





○第８１回

開催日： 令和７年１１月８日（土）
テーマ： 立田山はドングリの森
参加者： １１名
講　師： 森林生態系研究グループ(暖帯林)
概　要： 立田山はシイやカシが大きく育つ立派な山です。立田山の森林について会場に用意されたドングリを観察し、形や種類の違いを学びました。





○第８２回

開催日： 令和８年２月２８日（土）
テーマ： 顕微鏡で覗いてみよう！植物病原菌の世界
参加者： １１名
講　師： 森林微生物管理研究グループ(樹病)
概　要： 植物も「病気」になることをご存知でしょうか。そんな植物の病気の原因となる微生物(特に菌類)を顕微鏡で観察しながら学びました。





森林総合研究所九州地域公開講演会

開催日時： 令和７年１１月１７日(月)
開催場所： くまもと県民交流館10階パレアホール（熊本市中央区手取本町８－９）
配信期間： 令和８年１月１日（金）～　令和８年１２月３１日（土）
配信場所： YouTube（森林総研チャンネル）
テ ー マ： 国有林発！新しい造林技術の開発と実践





講演

○ 造林コスト削減等に向けた技術開発の取組 ～「低コストモデル実証団地」の設定経緯～
森本　明（林野庁九州森林管理局森林整備部　技術普及課）
戦後植えられた森林は、主伐期を迎えており、主伐後の再造林を着実に進めていくためには、造林コストの削減等が不可欠です。そこで、国の先導的な役割を発揮するため、熊本県人吉市に所在する広大な約１０haの国有林のフィールドにおいて様々な試験研究等を実施し、その成果等を広く林業関係者と共有し効率的な森林施業を目指すツールとすべく、その経緯を紹介します。

○ エリートツリー等を活用した低コスト再造林の可能性とリスク
伊藤　哲（宮崎大学農学部農学科農学部門　森林環境持続性科学領域）
エリートツリーや特定母樹は本当に林業を救えるのでしょうか？　複数試験地での成長データに基づいて、「成長に優れるスギ」のポテンシャル（潜在力）と様々な条件下での実際のパフォーマンスを紹介し、低コスト再造林への活用の可能性と留意点を解説します。また、各系統（品種）の特徴と施業方法を考慮した系統選択・植栽場所選択の考え方も紹介します。

○ 生物多様性に優しい単木管理型の新しい人工造林技術
八木　貴信（森林研究・整備機構　森林総合研究所九州支所）
従来型の人工林造林技術はスギ等の造林樹種の単純林育成で木材生産効率を高める一方、生物多様性は犠牲にし、造林木に邪魔な雑草木は下刈り・除伐等で排除してきました。しかし新技術で造林木と雑草木の共存が可能になれば生物多様性の損失は減らせます。そのような新技術である単木管理型初期保育について、植栽後７年間の最新の試験成果を紹介します。

○ 高下刈り：刈払いの強度を下げてシカ食害を軽減できるか？
野宮　治人（森林研究・整備機構　森林総合研究所九州支所）
再造林に向けて安定的な苗木生産が求められている中、苗木生産を脅かす菌類による病気の拡大が危惧されています。スギの苗木生産で最も警戒が必要な病気である「赤枯病」は、症状が類似する他の病気と判別が難しく、防除に使用できる薬剤が少ないという問題を抱えています。これらを解決するため、迅速な診断手法と、有効な防除薬剤の探索を行いました。

○ シカ生息地におけるシカ被害軽減を組み合わせた下刈方法
川野　幸三（林野庁九州森林管理局森林整備部　森林技術・支援センター）
再造林コストの削減が課題であるが、中でも下刈作業のコスト削減、負担軽減が重要となっている。近年ではシカ被害対策が必須となってきており、造林コストをさらに押し上げる状況となっている。低コスト団地で実施したシカネットを使わない高下刈試験を、国有林の事業に適用して効果を検証した。シカ食害は発生したが、スギは高下刈でも普通下刈に近い成長を示した。

諸行事

○熊本市立桜山中学校職場体験学習「ナイストライ」
・開催日時： 令和７年７月８日（火）～７月１０日（木）
・開催場所： 九州支所
・概　　要： ２名の生徒が、試験研究及び補助業務を体験した。




○九州農政局主催(オンライン)：消費者の部屋－夏休み特別イベント－
「しっとっと？国のお仕事～」
・開催日時： 令和７年７月１８日（金）～８月３１日（日）
・開催場所： オンライン
・概　　要： オンラインサイトにおいて「押し葉を作ってみよう」動画ほか５点＋森林総研紹介動画（YouTube）を提供した。





○九州農政局主催：消費者の部屋－夏休み特別イベント－
「しっとっと？国のお仕事～きなっせ！夏休み見学デー」
・開催日時： 令和７年７月３０日（水）～７月３１日（木）
・開催場所： 熊本地方合同庁舎Ａ棟（熊本県熊本市）
・概　　要： 「浮かべてみよう！重い木　軽い木」と題して九州支所として出展した。





○消費者の部屋－特別展示－
・開催日時： 令和７年１０月２７日（月）～１０月３１日（金）
・開催場所： 九州農政局「消費者の部屋」（熊本県熊本市）
・概　　要： 「ワクワクする！森林(もり)の博士が語る科学の魅力」と題し、森林の謎やはたらきについてわかりやすく解説するとともに、今まで誰も知らなかったことを科学的に明らかにしていく「研究」の楽しさをパネルにし、森林についてさらに興味を持っていただき、「研究」の魅力を感じていただける展示内容としました。

○森林・林業の技術交流会発表大会
・開催日時： 令和７年１１月６日（木）～１１月７日（金）
・開催場所： 九州森林管理局（大会議室）（熊本県熊本市）
・概　　要： 九州森林管理局主催で開催され、支所長が審査委員長として出席した。

○森林・林業学習会（森林整備センター九州整備局熊本水源林整備事務所主催）
・開催日時： 令和８年２月２０日（金）
・開催場所： 黒肥地小学校（熊本県多良木町）
・概　　要： 熊本水源林整備事務所主催開催された森林・林業学習会において、産官学民連携推進調整監・吉田智佳史が講師として参加した。

公開シンポジウム
『温暖化最前線！～鹿児島の植物たちはどうなる？～』の開催

森林生態系研究グループ　金谷　整一
九州支所長　勝木　俊雄

はじめに：近年、国内外で気候変動による植物や森林生態系への影響が懸念されている。分布南限の温帯性植物あるいは北限の亜熱帯性植物を多く擁する鹿児島県は、我が国の中で最も早く気候変動の影響が生じる可能性がある一方で、その実態に関する研究事例は非常に少なく、社会的な認知度も低い。気候変動による鹿児島県内の植物に対する影響については、森林総合研究所九州支所に加え、鹿児島大学および地域の市民団体等で精力的に調査・研究が進められている。そこで、これまで蓄積された気候変動に関する科学的知見について、一般市民および地元の研究・教育・行政機関の関係者等へ公開し、身近な問題として認識してもらうとともに、将来の気候変動対策への関心を高めることを目的に、公開シンポジウムを開催した。

予算：森林総合研究所の令和 7 年度「産学官民・地域連携推進のための活動費」により実施した。

後援：九州森林管理局、九州地方環境事務所、鹿児島県、鹿児島市、鹿児島大学総合研究博物館、鹿児島大学農学部、屋久島学ソサエティおよび九州電力株式会社鹿児島支店より後援をいただいた。

広報：開催案内用に作成したチラシ（図 1）を、2025（令和 7）年 12 月～2026 年 1 月に九州各地の森林・林業関係団体、森林インストラクター、樹木医および教育関係者等に郵送あるいはその PDF ファイルを送信し、鹿児島県庁および鹿児島市役所にある記者クラブに配布した。また、2025 年 12 月 13 日～14 日に屋久島町で開催された第 13 回屋久島学ソサエティ大会時に、チラシの掲示および配布を行った。この他、2025 年 12 月 19 日に九州支所のホームページへ開催案内を掲載し、2026 年 1 月上旬には、チラシを拡大した立て看板を鹿児島大学構内の 4 か所に設置した（写真 1）。



図 1．作成したチラシ（表）



写真 1．会場前に設置した立て看板（鹿児島大学構内）

講演者：講演者は九州支所の勝木および金谷に加え、鹿児島大学総合研究博物館の田金秀一郎准教授、鹿児島大学農学部の香西直子准教授および屋久島照葉樹林ネットワークの手塚賢至代表に依頼した。また総合討論（パネルディスカッション）の座長には、気候変動に関する研究を進めている森林総合研究所関西支所の中尾勝洋主任研究員とした。

開催概要：本シンポジウムは、2026（令和 8）年 1 月 31 日（土）13：30 より、鹿児島大学稲盛会館（鹿児島市郡元 1-21-24）にて開催した。

開催に先立ち、支所長である勝木が本シンポジウムの趣旨説明を行った（写真２）。また 5 題の講演終了後には、総合討論（パネルディスカッション）を実施した（写真３）。なお、講演者（所属）および講演タイトル等は以下のとおりであり、司会は、産学官民連携推進調整監の吉田智佳史が務めた。

① 田金秀一郎（鹿児島大学総合研究博物館・准教授）
「温暖化が鹿児島の植物相に及ぼす影響」

② 手塚賢至（屋久島照葉樹林ネットワーク・代表）
「天空の花・屋久島最高山帯に生きるヤクシマリンドウと温暖化」

③ 金谷整一（森林総合研究所九州支所・主任研究員）
「“森の女王”のピンチ？　温暖化でどうなる鹿児島のブナ」

④ 香西直子（鹿児島大学農学部・准教授）
「温暖化で鹿児島の果樹栽培は今後どうなる？」

⑤ 勝木俊雄（森林総合研究所九州支所・支所長）
「鹿児島でお花見ができない？」

⑥ 総合討論（パネルディスカッション）
座長：中尾勝洋（森林総合研究所関西支所・主任研究員）
パネラー：田金秀一郎、手塚賢至、金谷整一、香西直子、勝木俊雄



写真２．講演を行う勝木俊雄


写真３．パネルディスカッションの様子

参加者：シンポジウムへの参加者は、92 名（講演者、座長および主催の関係者の計 12 名は含まず）であった。都道府県別にみると鹿児島県が 80 名（87.0%）で、他の九州各県（福岡県、熊本県、宮崎県）を加えると 90 名（97.8%）に達した（表 1）。また、東京都から 2 名（2.2%）の参加があった（表 1）。

参加者を官民別にみると、「官公署（九州森林管理局、環境省、鹿児島県庁、鹿児島市役所および鹿児島大学等)」が 36 名（39.1%）で、「一般・その他」は、56 名（60.9%）であった。このうち「林業・緑化・造園等」の関係者は、それぞれ 24 名および 9 名で、官民合わせると参加者全体の 1/3 以上の 33 名となった。

また所属機関・職種別では、「行政」が 21 名（22.8%)、「研究・教育」が 15 名（16.3%)、「法人・組合・協会」が 5 名（5.5%)、民間企業が 15 名（16.3%)、「市民団体等」が 13 名（14.1%）および「その他」が 23 名（25.0%）となった。

おわりに：例年、九州支所では熊本県内で公開講演会を行っているが、今回は、鹿児島県内で開催した初めてのイベントであった。しかしながら、これまで連携してきた関係諸機関ならびに鹿児島大学のご理解とご協力により盛会となり、極めて有意義なシンポジウムとなった。次年度以降も、温暖化の最前線にある鹿児島県内各地で調査を継続するとともに、地域の方々や関係機関と様々な影響の情報を共有しつつ適切に対応していくことが重要であろう。今後、新たな知見が得られた際には、後続のシンポジウムを改めて企画したいと考えている。

表１．都道府県別の参加人数

都道府県	人数（名）	割合（%）	備　考（参加者が記載した区市町村）
鹿児島県	80	87.0	
熊本県	4	4.3	菊地市、合志市、八代市、水俣市
宮崎県	4	4.3	宮崎市、延岡市、串間市、三股町
福岡県	2	2.2	筑紫野市、糸島市
東京都	2	2.2	大田区、青梅市
	92	100.0	

表２．官民別の参加人数

官・民	人数（名）	割合（%）	備　考
官公署	36	39.1	うち林業・緑化・造園等：24名
一般・その他	56	60.9	うち林業・緑化・造園等：9名
	92	100.0	

表３．所属機関・職種別の参加人数

所属機関・職種	人数（名）	割合（%）	備　考
行政	21	22.8	環境省、林野庁、県庁、市役所等
研究・教育	15	16.3	大学、試験場、高校等
法人・組合・協会	5	5.5	社団法人、財団法人、森林組合等
民間企業等	15	16.3	一般企業、造園業等
市民団体等	13	14.1	市民団体、研究会会員、写真家等
その他	23	25.0	
	92	100.0	

九州地域評議会報告

開催日時： 令和８年２月２日（月） 13：30～17：15
開催場所： 九州支所（会議室）

１．評議会委員

合原　万貴　マルマタ林業株式会社・取締役
藤掛　一郎　宮崎大学農学部・教授
梅木　洋一　九州森林管理局・業務管理官

２．出席者

九州支所： 支所長、産学官民連携推進調整監、地域研究監、チーム長（２）、
グループ長（５）、総務課長
九州育種場： 場長、育種課長
九州整備局： 局長
事務局： 九州支所地域連携推進室長

３．各機関からの概要報告および研究成果の紹介

１）九州支所
・概要報告（支所長・勝木 俊雄）
・主な研究成果の報告
都市孤立林における昆虫多様性の約50年の変化
（生物多様性担当チーム長・佐山 勝彦）
樹木根系による斜面安定性の評価－伐採後に侵入する樹種を対象として－
（山地防災研究グループ長・黒川 潮）
間伐遅れ林を航空レーザ計測で正確に把握する
（森林資源管理研究グループ長・髙橋 與明）

２）九州育種場
・概要報告（場長・中島 朝長）
・主な研究成果の報告
ヒノキ特定母樹、マツノザイセンチュウ抵抗性品種（クロマツ・リュウキュウマツ）の開発
（育種課長　千吉良　治）

３）九州整備局
・概要報告（局長・丹保 博人）

４．概要報告および研究成果の紹介に関する主な意見・質疑応答

１）九州支所
（合原委員）
多様性の指標について、もう少し詳しく教えていただきたい。また、個人宅の庭などが生物多様性に影響するか？
（当方）
今回は分かりやすいように種数で示したが、単純に種が増加したから多様性が豊かになるわけでもないので、指標を簡単に示すことはとても難しい。また、庭などの緑地がなんらかの影響がある可能性は考えられる。
（合原委員）
針葉樹伐採跡地にどのような広葉樹が侵入するか、予想することは可能なのか？
（当方）
周囲の状況からある程度予想することは出来ないでもないが、そうした技術をもつ人は少ないし、シカの影響もあるので、実際に予想することは困難である。

（合原委員）
　データの基づいた客観的な人工林経営の判断が出来ることは素晴らしいが、こうしたデータはどのように利用すればよいのか？
（当方）
　現実的には、市町村の発注に基づいて航測会社が測定している。そのため、今回示したような分析については、航測会社に理解してもらうことが重要だと考えている。

（藤掛委員）
　都市化だけではなく、気候変動などによる乾燥のような環境変化の影響はあるのか？
（当方）
　要因についての評価は困難であるが、一部の種群が減少している要因にそうした環境変化が影響していることは十分考えられる。
（藤掛委員）
　アカメガシワ以外の広葉樹はどのようになっているのか？
（当方）
　今回はアカメガシワの初期密度がどこでも比較的高かったことから、特にアカメガシワを用いて分析した。他にはミズキやエゴノキなどの比較的長命な落葉広葉樹が入っていたが、いずれも低い密度であった。
（藤掛委員）
社会実装するには他の地形のようなデータも必要ではないか？
（当方）
　プロジェクトの中で発表者が関わった部分がこの部分だけであったが、他の研究者が、地形や林齢などのデータを用いた分析をおこなっており、総合的に人工林の管理優先度を判断する形になっている。

（梅木委員）
　アカメガシワの根は肉眼で識別可能なのか？
（当方）
　数多くを観察していると、色合いや形状などからある程度の根の樹種識別は可能となる。アカメガシワは、比較的よく識別できた。
（梅木委員）
　実際の森林は広葉樹林や混交林も含まれていると思われるが、どのように処理しているのか？
（当方）
　林班情報などから、針葉樹人工林だけを抽出して解析している。

２）九州育種場
（合原委員）
　スギ以外でも、ヒノキやマツ類の育種をおこなっていることを知って勉強になったが、将来的な重要は高まっていくのか？
（当方）
　利用に関しては専門ではないので正確に回答することは難しいが、マツ枯れの被害がまた増加している現状がある中、育種場は対応できる系統を増やしてくことが重要だと考えている。

（藤掛委員）
　第２世代の数を増やすことにどのような意味があるのか？
（当方）
　少数の系統だけを増殖すると遺伝的多様性が低くなり、他の被害リスクが高くなる。それを低下させるためには植えることが出来る系統を増やすことが重要である。

３）九州整備局

（合原委員）

ブロックディフェンスとはどのようなものか？

（当方）

シカ柵の囲い方のひとつで、小面積を囲い、シカ道を閉じないことで、シカによるシカ柵の破損が少なくなる。

（藤掛委員）

エリートツリーを植えるような場合、どのようなプロセスで決定されるのか？

（当方）

基本的には所有者の意向が尊重されるので、所有者や事業者を含めた関係者間で合意して進めることになる。このような背景から、見本林のようなものがあると、所有者の理解も進むので、採用してもらいやすくなる。

５．講評

（合原委員）

普段知ることができない、広い研究・事業の内容を知ることが出来て勉強になった。今後は、シカ柵のネットの処理問題やチェーンソーオイルなどの環境への配慮に対する情報提供について、より一層の情報提供をいただけるとありがたい。おそらく、民間企業なども環境に配慮した施業についてはとても関心が高いので、そうした情報がより重要になると思われる。

（藤掛委員）

低コスト再造林技術については、ある程度現場でも利用され始めているように感じるが、実際にどの程度利用されているのか、その効果はどうなのか、といった検証の情報が少ないように思われる。そうしたフィードバックがあると、より効率的に次の研究に結びつくように思われる。そのような意味で、この地域評議会のような場で林業に関わる様々な立場の人が意見交換することはとても重要と感じている。

（梅木委員）

国有林においてもこれから生物多様性の重要性が高まることが想定されており、森林整備センターの事業の話はとても参考になった。また、森林総研の人工林伐採跡地の広葉樹林の防災効果について、アカメガシワがあることで保たれているような実感はこれまでもあったが、実際に数字で示してもらったことで、組織としても役立つと感じた。また、沖縄のマツ枯れは薬剤散布が難しいことから対策が大変な中、リュウキュウマツの抵抗性品種開発の話が聞けて、とてもよかった。

職員の異動

（転出）

７．４．１

伊神裕司	九州支所長	→	研究ディレクター（木質資源利用研究担当） 木材研究部門構造利用研究領域長事務取扱
佐藤温	九州支所総務課長	→	総務部調達課長
串田夏基	九州支所地域連携推進室	→	企画部国際戦略科
鳥山淳平	九州支所主任研究員（森林生態系研究グループ）	→	森林研究部門立地環境研究領域主任研究員（土壌資源研究室）

（採用）

７．４．１

日髙健治	九州支所総務課 再雇用一般専門員（フルタイム勤務）
近藤洋史	九州支所森林資源管理研究グループ 再雇用研究専門員（フルタイム勤務） 九州支所地域連携推進室併任

（転入）

７．４．１

吉田智佳史	九州支所産学官民連携推進調整監	←	林業研究部門林業工学研究領域長
山本泰代	九州支所総務課長 九州支所総務課会計係長事務取扱	←	総務部職員課課長補佐
中川琴葉	九州支所地域連携推進室	←	総務部総務課

（配置換）

７．４．１

勝木俊雄	九州支所長	←	九州支所産学官民連携推進調整監
川合浩太	九州支所総務課庶務係長	←	九州支所総務課会計係長
石原誠	九州支所主任研究員（森林微生物管理研究グループ）	←	九州支所チーム長（樹木病態生理担当）

（転出）

７．１０．１

中村慎崇	九州支所主任研究員（森林微生物管理研究グループ）	→	関西支所主任研究員（生物被害研究グループ）

（退職）

なし

（定年退職）

なし

（任用更新（フルタイム勤務））

８．３．３１

日髙健治	九州支所総務課 再雇用一般専門員（フルタイム勤務）
村上茂樹	九州支所山地防災研究グループ 再雇用研究専門員（フルタイム勤務）
近藤洋史	九州支所森林資源管理研究グループ 再雇用研究専門員（フルタイム勤務）

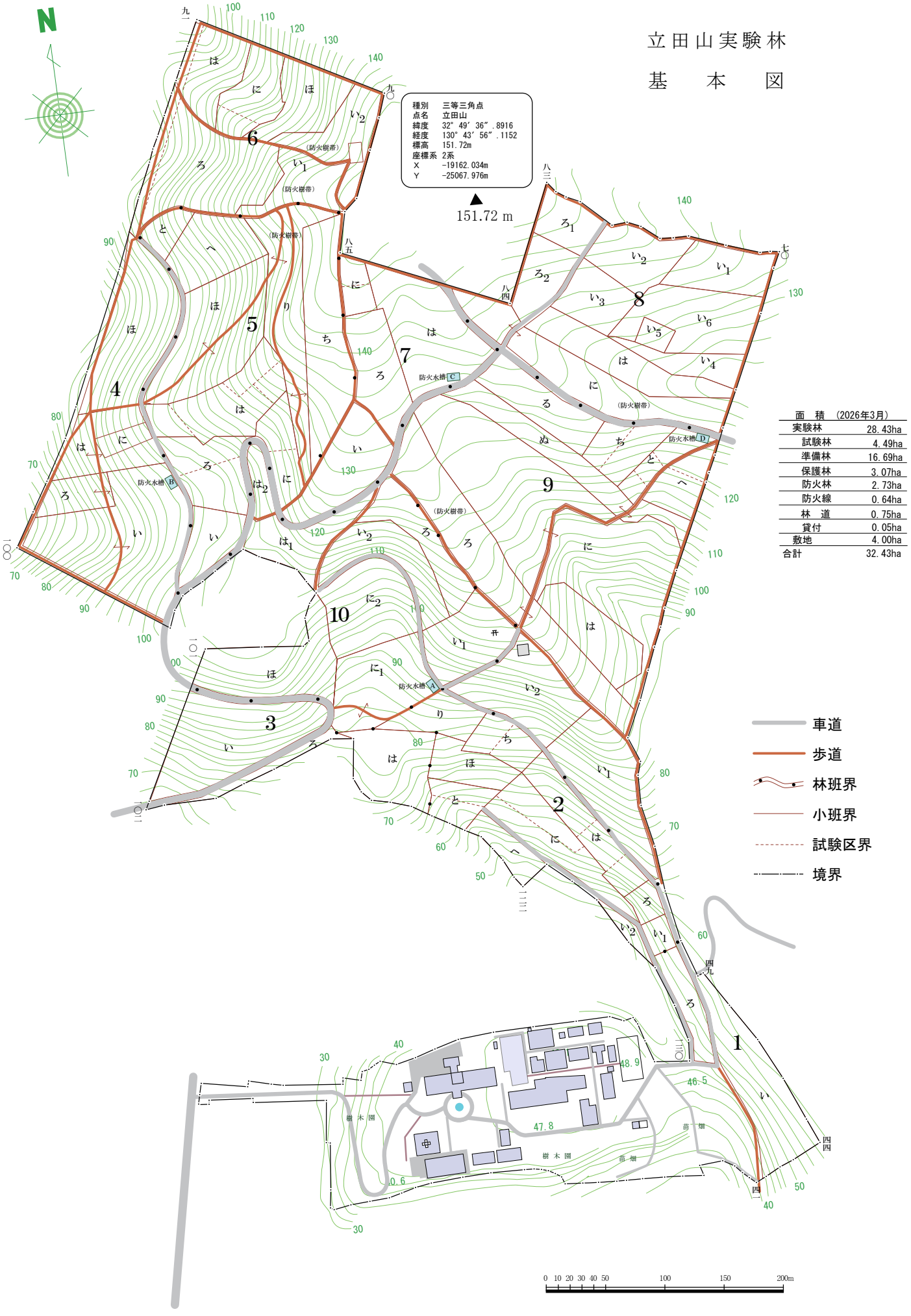
組織図

令和8年3月31日現在
太字は所属の長

九州支所	**勝木俊雄**				
産学官民連携推進調整監	**吉田智佳史**				
育種調整監(併任)	**中島朝長(九州育種場長)**				
地域連携推進室	**戸石　亮**	中川琴葉			
研究情報専門職	**小村洋志**				
業務係	**松永道雄**				
総務課	**山本泰代**				
一般専門員	**日髙健治**				
庶務係	**川合浩太**				
会計係	(事**山本泰代**				
用度係	**飯田啓達**	園田藍			
地域研究監	**酒井佳美**				
チーム長（生物多様性担当）	**佐山勝彦**				
チーム長（土壌環境評価担当）	**稲垣昌宏**				
森林生態系研究グループ	**野宮治人**	金谷整一	八木貴信	山川博美	
		森　大喜	山岸　極		
山地防災研究グループ	**黒川　潮**	北村兼三	壁谷直記	村上茂樹	
森林微生物管理研究グループ	**木下晃彦**	安藤裕萌	石原　誠		
森林動物研究グループ	**安田雅俊**	小高信彦	鈴木　圭	東川　航	
森林資源管理研究グループ	**高橋與明**	笹田敬太郎	太田(福本)桂子	近藤洋史	

立田山実験林

基　本　図



面　積　（2026年3月）	
実験林	28.43ha
試験林	4.49ha
準備林	16.69ha
保護林	3.07ha
防火林	2.73ha
防火線	0.64ha
林　道	0.75ha
貸付	0.05ha
敷地	4.00ha
合計	32.43ha

立田山実験林の現況

（令和８年３月現在）

林小班	面積(ha)	林班名	（設定年度）
1 い	0.66	有用樹種成長比較試験林（準備林）	(昭35)
ろ１	0.10	有用樹種成長比較試験林（準備林）	(昭37)
ろ２	0.06	イスノキ遺伝資源保存試験林	(平22)
計	0.82		
2 い１	0.08	広葉樹更新試験林（準備林）	(平2)
い２	0.08	広葉樹害虫生態調査試験林（準備林）	(平元)
ろ	0.10	早生樹種成長比較試験林（準備林）	(昭36)
は	0.53	針・広混交並びに薬木・五葉松植栽試験林	(平元)
に	0.39	スギ病害・広葉樹害虫調査試験林（準備林）	(昭54)
ほ	0.16	針・広混交林害虫動態調査試験林（準備林）	(平元)
へ	0.11	スギ在来品種成長比較・スギ病害試験林（準備林）	(昭49)
と	0.08	スギ虫害調査試験林・ヒゴツバキ品種集植地（準備林）	(昭57・平元)
ち	0.13	コナラ・キリ等広葉樹試験林（準備林）	(昭49)
り	0.16	広葉樹病害試験林	(昭35)
計	1.82		
3 い	0.85	広葉樹及び下床植生遷移調査試験林（保護林）	(平元)
ろ	0.13	ナギほか下床植生遷移調査試験林（保護林）	(昭38)
は	0.53	表層土壌水分動態・森林炭素循環試験林（準備林）	(平12)
計	1.51		
4 い	1.02	広葉樹害虫被害調査試験林（準備林）	(平11)
ろ	0.29	キリ植栽試験林（準備林）	(平4)
は	0.36	ヒノキ成長比較試験林（準備林）	(昭31)
に	0.09	クヌギ植栽試験林（準備林）	(平元)
ほ	0.73	ヒノキ間伐試験林	(昭31)
計	2.49		
5 い	0.15	サクラ植栽試験林（準備林）	(平3)
ろ	0.30	ケヤキ・カシ類及びヒノキ広葉樹混交試験林（準備林）	(昭46)
は	0.50	ヒノキ系統別・クヌギ、ニマイガワ菌試験林（保護林）	(昭63)
に	0.26	クヌギ植栽試験林（準備林）	(昭43)
ほ	0.79	広葉樹自生更新調査試験林（準備林）	(平4)
へ	0.35	広葉樹植栽試験林（準備林）	(平6)
と	0.10	リキダマツ・ツバキ植栽試験林（準備林）	(昭43)
ち	0.63	森林表層土壌水分動態試験林	(平元)
り	0.55	防火林	(昭30)
計	3.63		
6 い１	0.27	防火林	(昭30)
い２	0.33	防火林	(昭63)
ろ	0.75	落葉樹混植景観造林試験林	(昭63)
は	0.29	イチイガシ若齢木育成試験林（準備林）	(昭63)
に	0.29	スギ・ヒノキ病害、表層土壌水分動態試験林（準備林）	(昭63)
ほ	0.36	シイタケ原木造林試験林	(昭63)
計	2.29		
7 い	0.48	広葉樹自然生態調査試験林（保護林）	(平元)
ろ１	0.46	ブナ科見本林	(平22)
ろ２	0.02	ヤクタネゴヨウ自生地外保存林	(平2)
は	0.64	落葉広葉樹成長比較試験林（保護林）	(昭30)
に	0.14	森林土壌の炭素循環及び根系の解明試験林（準備林）	(昭44)
計	1.74		
8 い１	0.28	マツ材線虫病試験林（準備林）	(昭54)
い２	0.24	マツ材線虫病抵抗性マツ植栽試験林	(昭54)
い３	0.18	広葉樹自然生態調査試験林（準備林）	(平5)
い４	0.21	ヒノキ造林試験林（準備林）	(昭27)
い５	0.09	スギ病害試験林（準備林）	(平元)
い６	0.58	広葉樹試自然生態調査試験林（準備林）	(平19)
ろ１	0.17	ヒノキ加害性昆虫の検討試験林（準備林）	(平元)
ろ２	0.23	広葉樹自然生態調査試験林（準備林）	(平19)
は	0.47	森林炭素循環試験林（準備林）	(平11)
に	0.65	防火林	(昭30)
計	3.10		

（令和８年３月現在）

林小班	面積(ha)	林班名	（設定年度）
9 い１	0.54	コジイ二次林動態観測試験林（立田山ヤエクチナシ自生地）	(昭40)
い２	0.41	酸性雨モニタリング試験林	(平2)
ろ	0.80	防火林	(昭30)
は	0.38	シイタケほだ場（準備林）	(昭43)
に	1.89	ヒノキ収穫試験林	(昭31)
へ	0.28	スギ病害試験林（準備林）	(平元)
と	0.22	害虫生態調査試験林（準備林）	(平元)
ち	0.26	常緑広葉樹害虫調査試験林（準備林）	(平元)
ぬ	0.25	カシ類植栽成長比較試験林（準備林）	(昭32)
る	0.46	コナラ成長比較試験林（準備林）	(昭33)
計	5.49		
10 い１	0.53	シイ更新試験地（準備林）	(昭61)
い２	0.46	シイ用材林誘導試験林（準備林）	(昭40)
ろ	0.46	外国マツ成長比較試験林（準備林）	(昭38)
は１	0.38	広葉樹自然生態調査試験林（保護林）	(平元)
は２	0.12	イスノキ植栽成長量試験林（準備林）	(昭38)
に１	0.41	早生樹育成試験林	(平29)
に２	0.60	幼齢林強度間伐試験	(平23)
ほ	0.54	スギ病害試験林（準備林）	(平元)
計	3.50		
その他	1.56	車道・林道	
	0.45	防火線	
	0.05	貸付地	
計	2.06		
合計	28.45		

試験地一覧表

当支所の研究を遂行するための試験地が九州一円に設定されている。これらは調査期間が長期にわたり、調査回数も１年に数回のものから何年かに１回のものまで様々である。現在継続調査中の試験地は次表のとおりである。

（令和８年３月現在）

ｸﾞﾙｰﾌﾟ（G）	試験地の名称	位置			樹種	面積(ha)	設定年
		管理署等	国有林名	林小班			
山地防災G	去川森林理水試験地	宮崎	去川	261へ、と、と1 、264と、ち	スギ シイ タブノキ	23.90	昭32
山地防災G	鹿北流域試験地	熊本	長生	51に、ほ、へ、と、ち、り、ぬ	スギ 広葉樹	12.70	平2
生態系G	常緑広葉樹林 動態解明試験地	宮崎	中尾	2093　い、ろ	常緑広葉樹類	109.00	平4
生態系G	常緑広葉樹林孤立林分試験地	北薩	荒平	39ん	常緑広葉樹類	3.43	平12
チーム長（土壌資源管理担当） 生態系G	酸性雨等森林衰退モニタリング試験地	熊本南部	樅木	1122い	ブナ モミ	36.00	平20
生態系G	常緑広葉樹老齢二次林試験地	宮崎	蜷尻	228に	常緑広葉樹類	1.00	平26
生態系G	新燃岳噴火跡森林動態観測試験地	鹿児島 宮崎森林管理署都城支署	霧島山 夷守	1080た、1085よ、よ１、2094へ	アカマツ スギ	0.75	平26
生態系G	スギ中苗を用いた低コストモデル実証試験地	熊本南部	西浦	21ろ	スギ	10.00	平29
生態系G	小萩国有林ヒノキ低密度植栽試験地	熊本署	小萩	170ろ2	ヒノキ	4.11	令4
生態系G	谷之城国有林スギ低密度植栽試験地	宮崎南部	谷之城	138い1	スギ	3.23	令4
生態系G	令和5年度低密度植栽試験地	宮崎森林管理署都城支署	猪之尾	2092い	スギ	1.60	令5
生態系G	令和6年度低密度植栽試験地	熊本署	吉原	41て	ヒノキ	3.64	令6
資源管理G	本田野収穫試験地	宮崎	本田野	65は、は1	ヒノキ	3.20	昭9
資源管理G	夏木収穫試験地	宮崎	夏木	2035ち	ヒノキ	4.29	昭11
資源管理G	尾鈴収穫試験地	西都児湯	尾鈴	1046や	ヒノキ	0.50	昭12
資源管理G	仁川第一号収穫試験地	熊本	仁川	184は	ヒノキ	0.36	昭23
資源管理G	久間横山収穫試験地	佐賀	久間横山	1044る、よ	ヒノキ スギ	2.64	昭25
資源管理G	端海野収穫試験地	熊本南部	端海野	2078ろ	ヒノキ	0.50	昭25
資源管理G	万膳第一号収穫試験地	鹿児島	万膳	1044け、1047ほ	ヒノキ	0.27	昭27
資源管理G	菊池水源収穫試験地	熊本	菊池水源	3か	スギ	1.00	昭34
資源管理G	河原谷収穫試験地	宮崎南部	河原谷	102そ	スギ	1.04	昭35
資源管理G	小石原収穫試験地	福岡	白石	2022そ	スギ	0.83	昭36
資源管理G	水無平収穫試験地	宮崎北部	水無平	2109へ	スギ	0.62	昭37
資源管理G	川添収穫試験地	鹿児島	川添	1033た	スギ	0.82	昭38
資源管理G	寺床第二収穫試験地	大分西部	寺床	218わ	スギ	0.97	昭41
資源管理G	鬼神収穫試験地	北薩	鬼神	39み	ヒノキ	1.17	昭42
資源管理G	西郷温泉岳収穫試験地	長崎	温泉岳	125ら	ヒノキ	1.01	昭43
資源管理G	西郷温泉岳収穫試験地	長崎	温泉岳	125な	スギ	1.02	昭48



令和８年版
森林総合研究所九州支所年報　第３８号（通算第６８号）

編集・発行　　森林総合研究所九州支所
〒860-0862　熊本市中央区黒髪４丁目11-16
TEL 096-343-3168　FAX 096-344-5054

発　行　日　　令和８(2026)年10月

©2026　Forestry and Forest Products Research Institute

本誌から転載・複写する場合は、森林総合研究所の許可を得てください。